



新宿発
325号

中近東、南米の女男平等は？

中近東や南米の大使が語る 「中近東諸国や南米の女性の状況」

アラブの親日国 オマーン
すべてのことが可能になる国 コロンビア
〈ニューサムライ〉の国 ニュージーランド

- | | | |
|------|-----------------------------------|--------|
| 沖縄から | 基地をめぐる激化する
名護市議選と県知事選 | 浦島 悦子 |
| 新潟から | 資料を読みながら | 押見 操子 |
| 読書室 | 『子どもたちの太平洋戦争』
地球村平和の交響曲完成をねがって | 岡田 黎子著 |
| 詩 | 叫び | 堀場 清子 |
| 母を語る | リブを生きた明治の女書生 5 | 斎藤 千代 |
| 会と催し | 欧米のフェミニズムと山川菊栄 | 岡田 夫佐子 |



325号 中近東、南米の女男平等は？

目次

巻頭言

未来館

国際シンポジウム 中近東や南米の大使が語る「中近東諸国や南米の女性の状況」…… 2

アラブの親田国 オマーン…… 6

すべてのことが可能になる国 コロンビア…… 13

ヘニューサムライの国 ニュージーランド…… 27

パネルディスカッション 世界各国の、すばらしいお話をうかがって…… 40

詩

叫び…… 堀場 清子…… 68

沖縄から 基地をめぐる激化する名護市議選と県知事選…… 浦島 悦子…… 71

新潟から 資料を読みながら…… 押見 操子…… 74

読書室 『子どもたちの太平洋戦争』地球村平和の交響曲完成をねがって…… 82

〈連載〉母を語る 7 リブを生きた明治の女書生 5…… 斎藤 千代…… 84

会と催し 欧米のフェミニズムと山川菊栄…… 岡田夫佐子…… 88

TOPICS…… 91

あじろのあじろ…… 119

中近東、南米の女性の状況を考える

一九七五年、国連で「世界各国の男女平等の推進」が決議されて以来、世界の各国で、「世界女性会議」が開かれ、それぞれの国の女性の地位は、確実に向上してきました。アジアでは、一九〇〇年に、北京で「世界女性会議」が開かれ、後進的と言われていたアジアの国ぐにの女性の地位も、確実に向上してきたことが確認されました。

しかし、欧米諸国の女性の情報が流布されているのに比べると、アジアや、中近東、南米などの女性の情報は、まだ十分には伝わっていません。

この号では、二〇〇九年に福島市の「福島県立女と男の未来館」で開かれた「中近東、南米の女性の現状を聴く集会」をご紹介します。

未来館館長の下村満子さんは、『朝日ジャーナル』元編集長、そして〈あごら〉発足の呼びかけ人。二〇〇〇年、福島県の男女共同参画委員長に任命され、同年、福島市に、福島男女共同参画未来館を設立。その館長として、毎年一回、「女と男の共同参画週間」を設け、未来館で、「男女双方の未来を拓く集会」を重ねるなど、封建的と言われてきた東北地方の女性の向上に貢献して来られました。

その集会の一端を、ご紹介します。

(あごら編集部)

— 未来館 国際シンポジウム —

中近東や南米の大使が語る 「中近東諸国や南米の女性の状況」



左から、下村満子氏

オマーン・スルタン国 特命全権大使 ハリッド・ビン・ハシル・ビン・モハメッド・アル・ムスラヒ閣下

コロンビア共和国 特命全権大使 バトリシア・カルデナス閣下

ニュージーランド 特命全権大使 イアン・フォーブス・ケネディ閣下

下村館長 皆様こんにちは。皆様もご存じのように、世界各国の大使においでいただくのは、昨年のシンポジウムに引き続き、二回目です。

大使の皆様のお話は、毎回、大変すばらしく、本当にどの国も、魅力的です。それぞれに、違う歴史、地理状況、文化があり、そういうものを比較しながら拝見していくと、「日本は日本の独自のものがあるように、世界にもいろいろな国があつて、それぞれが素晴らしい文化を持ち、自分の国に誇りを持っている」ということがわかり、「そういうことを知ると」とが、まず平和の第一歩だ」と思います。

私が福島県男女共生センターの館長に就任させていただくことになりましたとき、最初に、いくつかのポリシーというか、私の方針を申し上げました。そのキーワードは、「ローカル、ナショナル、インターナショナル」で、現在も、それを実行しています。

一番目の「ローカル」というのは、このセンターは福島県の皆様の税金で作ったものですから、まず福島県の方がたに、ここを大いに利用して頂き、ここから学び、福島県の方がたに貢献する素晴らしいセンターにして頂きたい、ということ。

二番目の「ナショナル」というのは、私は国際派ジャーナリストと言われておりますこともありまして、「こじんまりとしたセンターになるのではなく、ここから発信するいろいろな情報、日本のどこで聞いていても、例えば東京の方がたにとっても、非常に有益で高いレベル

の議論と情報発信をしたい」ということです。

そして三番目が「インターナショナル」です。

なぜ「インターナショナル」か。

「福島県にインターナショナルは必要ではないのでは」と思う方も、中にはいらつしやるかもしれません。皆様すでにご存じのとおり、今や日本は、どの国とも深い関わりがあり、「このような国ぐに無しに、私たちの生活は成り立っていない」ということも事実です。お互いが強く結ばれている、お互いが「ギブ・アンド・テイク」という関係です。

例えばオイルがなかったら日本は大変ですし、本日は大使に敬意を表してコロンビアの切り花を中心にお花を生けていただきましたが、この美しい切り花は、コロンビアの名産です。また、ニュージーランドからは、日本とは違う育て方をしたビーフというように、非常に多様に、みんなが繋がっているということを、まず、私たちが自覚する必要があります。

今、世界は大変な経済危機で、アメリカに端を発したこの経済危機は、日本にも、すぐ押し寄せてきて、東京だけではなく、全国、そして福島にも、深刻な影響を及ぼしています。

このように、今や、どの国も、地方であっても、世界と無関係には生きられないという時代です。皆様方には世界のいろいろな情報や知識を学んでいただくと同時に、東京からだけでなく、地方からもまた、外に向かって情報を発信していくことが、ますます必要となってきました。

「地方の時代」と長らく言われてきましたが、日本には、たくさんの魅力的な都市が全国にあつて、歴史も文化も違います。

たとえば福島は、果物も魚も美味しく、温泉も山もあり、そういうそれぞれが、「オンラインワンの顔を持った地方」を「売り」に、全部が東京の真似をせずに、福島は福島らしいアイデンティティというか、「顔」を持って、皆さんに魅力を感じていただけるようにしていく。そのためにも、福島と、直接その国、たとえば、中国でも韓国でも良いのですが、いろいろな国と、県や地方が直接的な関係を持つ、交流をする、というのも、必要だろうと思います。

「地方もインターナショナルな知識を身に付け、ローカルにアクションする」ということのために、私はこの三つのキーワードを基に、毎年、いろいろなプログラムを企画し、年に一回は、国際的なイベントを開催し、例えば日本にいる諸外国の特派員の方がたや、アメリカの、いろいろな女性リーダーの方においでいただいたり、また、中国の方がたとの対談を行なうなど、いろいろなことをやっています。

昨年から、各国の大使にお出でいただき、お話を伺っていますが、一国を代表する大使に、福島まで来ていただくということは、普通はなかなかないことであり、大使においで頂くために、センターのスタッフが努力をして、ほぼ一年の準備期間をかけてお願いしました。

本日この集会に参加なさった皆様は、大変ラッキーだと思つていただければ、と思います。では、さっそく各国の皆様のお話を承りましょう。

アラブの親日国 オマーン



オマーン・スルタン国 特命全權大使
ハリッド・ビン・ハシル・ビン・モハメッド・アル・ムスラヒ閣下

皆様、こんにちは。

まず、福島県男女共生センターが、この素晴らしい興味深いシンポジウムを主催して下さい、皆様とお話しできることを、大変嬉しく光榮に思っております。

皆様にお目にかかって、そして美しいこの福島県で、家族とともに自然の美しさを享受し、文化伝統について学ぶ機会を得させて頂いたことを、本当に嬉しく思います。

まず、簡単にオマーンという国についてご紹介させて頂き、そして、オマーンと日本の関係、それからオマーンにおける社会の発展、そしてオマーンの女性をエンパワメントして、力、権利等をいかに付与してきたかについて、お話ししたいと思います。

皆様の中でオマーンにお越し頂いたことのある方は、挙手をお願いしますか（一名挙手下村館長）。オマーンにお越し頂きありがとうございます。

シルクロードの時代から、東アジアと深いえにし

オマーンと日本は、両方ともアジアの国です。地理的には、中東諸国の中では日本に一番近い国でもあり、日本から西に八〇〇万キロくらい離れたところ、アラビア半島の南東にあり、〈シンドバッドの生まれた場所〉とされています。

イスラム国であり、アラブの国でありますが、バーレーン、クエート、サウジ、カタールやアラブ首長国連邦と共にGCC（湾岸協力会議）の一員でもあります。

面積は日本よりも少し小さい三〇万平方キロですが、人口は日本に比べるとはるかに少ない二七〇万人です。福島県の人口は二二〇万人と伺っていますので、似たような人口規模だと思います。

また、福島県とのもう一つの共通点は、美しい海岸線があることです。アラビア海オマーン湾とアラビア海に面した一七〇〇キロの海岸線があります。「砂漠の国」だと日本では誤解されているようですが、海や砂漠だけでは決してありません。福島県と同様に、様々な地形に恵まれていて、平野も高原もあり、山岳地帯もありますので、訪れた方がたは、自然の美しさに感動されると思います。

また、古代から東洋と貿易が行われており、何百年間も貿易船やラクダのキャラバンが、乳香や、ナツメヤシを、様々なシルクロード等を通じて輸送してきました。そして、この貿易とともに、様々な知識、文化、言語が運ばれ、我が国の歴史も変わり、また、他の文明に

も影響を与えてきたと思います。

アラビア半島には長い歴史があり、世界遺産が十か所ありますが、そのうち四か所がオマーンにあります。残りはイエメンに四か所と、バーレーンとサウジに一か所ずつあります。

観光地に恵まれたオマーン

まず観光についてお話しします。

オマーン人は非常に温かい友好的な国民であり、優れた文化遺産、自然の美しさにも恵まれています。人里離れた静かな海岸や砂丘など、楽しいところはたくさんありますが、都心部の町であれば、伝統的なアラブの市場、スークを訪れると、おもしろいと思います。金銀の宝飾品やハンジャルという、男性だけが正装時に帯刀する短剣もありますし、装飾品、スパイス、乳香やお香を焚く香炉等が、手工芸品として有名です。古代からのアラブの歴史を実感できる地域ですので、この地方で主要な観光目的地となっています。

この観光業も、最近非常に変わってきています。たくさん新しいホテルやリゾート施設が建造され、新しい観光スポットも開発されていますので、日本人観光客が中東にいらつしやる時には、オマーンが主要な目的地の一つになりつつあります。ただし、中東を訪れる日本人観光客は、全体のたった一パーセントですので、今後さらにこの数字が増えることを期待しています。ぜひ、オマーンにおいて頂きたいと思います。

日本との関係についてですが、日本とは、歴史的にも長く、また、良い友好関係を保っています。正式な外交関係は、一九七二年以降となつていますが、貿易、投資を含む両国間の交流、協力は、様々なレベルで増えており、オマーンは、日本の輸出市場として湾岸協力会議国の中で三位となっています。二国間貿易は九四・三億ドルで、二〇〇七年と比較した場合、輸出入の両方で五五パーセントの伸びとなつていて、日本の原油輸入の相手先としては三位になっています。また、この何年間は、皇室をはじめとする、政府高官、国会議員、財界、学者などの要人の交流も活発ですし、様々な文化、学術、教育、スポーツ面での交流、協力がみられています。皆様のご支援を得て、さらに両国間の関係を強化していきたいと考えています。

日本と日本の国民に対してですが、日本は、模範となるべき国、先進国であり、すぐれた文化、伝統を保っており、非常に深い尊敬、畏敬の念を持っています。高度なハイテクの技術もあり、オマーンの家すべてに、車、テレビ、カメラなど、何らかの形で日本の製品があります。また、日本の文化についていえば、例えば美しい日本庭園の技術、華道、武道、相撲、書道、折り紙、和食、特にお寿司、お刺身、天ぷらが知られています。日本の和牛も有名ですし、日本のアニメ、漫画は、若者に非常に高い人気があります。さらに、第二次世界大戦で原爆を投下された広島、長崎の悲しい経験についても、よく知っています。

次に、オマーンの社会開発、そして女性への権限の付与、エンパワメントについてお話ししたいと思います。

夫権社会から男女共生社会へ

一九七〇年以前のオマーンは孤立した国で、他のアラブ隣国も含め、あまり他国との交流もなく、ラジオ放送や本、新聞などの輸入も禁止され、海外旅行もできない状況でした。

医療面では、教会の病院が二つあるのみで、教育の分野でも、国全体で男子向けの小学校が三校、生徒数が九〇〇人といった状況だったのです。

このように、一九七〇年以前の五〇年間は生活が非常に厳しく、困難であり、また、女性に對しても、厳しい状況であつたため、多くの人たちが、オマーンから海外へ出るようになっていきました。

カブース・ビン・サイード陛下は、このような、あらゆる変化、進歩を拒むような体制をとる父親の支配下の国の状態を見て、苦しみ悩み、一九七〇年の七月に、平和的クーデターによつて政權を引き継ぎました。こうして、それ以降は、医療、公共サービス、教育、インフラ、統治、法制、生活基準、社会経済、政治などのあらゆる側面が、一八〇度変わりました。

この、奇跡とも言ふべき変化の例をいくつか申しあげますと、医療の面では、五九の病院、二〇の保健福祉ヘルスセンターができ、また、各地域には一三九のヘルスセンターが置かれ、一九七〇年までは一二床しかなかった病床数が、今や五四〇〇床となり、同様に、一九七〇年には十三名しかいなかった医師も、五〇〇〇名以上となつております。WHO(世界保健機構)は、一九一の国を調査した結果、公立で最も高い医療制度を持つてゐる国のリストではオマーンが

一位に、また、包括的な医療を提供するというランキングでは8位になっています。教育の分野においては、現在では一三〇〇校以上の学校で、六二万以上の男女の生徒が教育を受けています。しかも、小学校から大学までの教育費は無料で、職業訓練も無料で受けることができます。

女性の権利も地位も平等

陛下は、国の発展にとって「女性に権限を付与することの重要性」を認識されていて、女性への平等な権利を認め、憲法や法律で、女性の教育又は医療への平等なアクセスを確立し、社会サービス、雇用でも、均等な機会が与えられています。政界でも女性への権利は平等であり、GCC諸国で女性の投票権が最初に認められたのも、我が国です。また、女性の国会議員や女性閣僚が誕生したのも、我が国が初めてでした。現在は、四名の女性大臣のほか、三名の女性大使がおられますが、国として大使に女性を任命したのもGCCでは我が国が初めてでした。

一九七二年にはアラブで最初の女性警察官を任命し、また二〇〇四年には五名の婦人が検察官になり、さらに昨年は、女性が検察庁の長官に任命されました。

現在、公共部門での幹部職の一パーセントが女性であり、公共部門の全体の雇用では三〇パーセントを占めている状況で、民間では会長又は最高経営責任者の地位にあり、大手企業でも女性が幹部になっていて、多数の女性が取締役の地位に就いています。

二〇〇三年の人口調査では、人口の四九パーセントが女性で、そのほとんどが十八歳以下で

すが、中等教育における成績優秀者のリストでは、女子生徒がかなりトップにいます。女性が教育を受けられず、権利もなかった一九七〇年から急激に変化して、現在は、最も進んだ先進国と、ほぼ同じような女性の権利が確保されています。

また、最初の女性NGOが一九七一年に首都マスカットに設立され、現在は女性問題関連のNGOは五一グループあり、国の発展に大きく貢献しています。

陛下は、「教育を受け仕事をする女性こそが、国の発展に大きく貢献できる」と確信しておられますので、陛下のスピーチを抜粋します。

「すべてのオマーン人の女性に呼びかけます。村、都市、そして都会に生活する女性、またはベドウィン社会で生活する女性、山岳地帯の女性、すべてが経済社会発展に貢献して下さい。教育を受けたオマーン人の若い女性が、地元社会で、実務的にも、知性面でも能力を発揮することを支援して下さい。オマーンのルネッサンスを実現し、国全体の才能を集め、国の栄光繁栄の実現のために一緒に働きましょう。この呼びかけに女性が応えてくれることを、確信しています。」

オマーンは、中東の中で最も平和で安全な国であり、世界の平和指数ランキング2008に優りますと、アジアの中でも日本に次いで二番目とされる〈安全で友好的な国〉ですので、ぜひ、新しい出会いを求めてオマーンへお越しいただきたいと思っています。

最後に、伝統的なオマーンの歓迎のメッセージ「アハラン・ワ・サハラン（ようこそ）」という言葉で、ご挨拶させて頂きます。ご静聴ありがとうございます。

すべてのことが可能になる国、コロンビア



コロンビア共和国 特命全權大使
バトリシア・カルデナス閣下

本日は皆さんとご一緒できて、本当に嬉しく思っております。

私をお招きくださった福島県男女共生センター及び下村館長に御礼を申し上げます。

男女共生という大切なことを推進しておられるというだけではなく、福島を国際化なさろうという努力をしておられるのも、素晴らしいことだと思います。このようなイベントにより、世界の国ぐにのことを知ることができまし、また我われも、美しい福島県を知ることができ、素晴らしいチャンスを受けたと思います。

今回は子供たちも一緒に参りまして、素晴らしい時を過ごすことができることを嬉しく思っております。

多種多様な国内の景観

コロンビアは、驚くほどコントラストが見事な国です。雪を頂いたアンデス山脈から、カリブ海の暖かい海岸に一日で出ることもできますし、アマゾンの熱帯雨林にもグワヒーラ砂漠にも行くことができます。本日に一日で行けるところばかりなので、雪のある場所からビーチに一日で旅行することも可能です。

平均気温は、だいたい二〇度で、地域によっては三〇度か三五度になることもありますが、いわゆる四季というものは無いため、一年中、同じような気候です。

日本とは太平洋を隔てた南米の、北西の角の恵まれた位置にあり、（ラテンアメリカのゴールデンゲート）と言われ、海岸線が大西洋と太平洋両側で三〇〇〇キロあります。隣国は、西にパナマ、東にベネズエラ、南東にブラジル、南にペルー、南西にエクアドルが位置し、このように恵まれた位置にあるため、様々なお客様を南北のアメリカから迎えており、まさに多様な文化が共存する国です。

人口は四三〇〇万人、国土面積は一〇〇万平方キロで、日本の約三倍の国土に、日本の人口の約三分の一が住んでいるという感じですが、福島と比較した場合には、人口で約二〇倍、面積で約十倍となります。

生物も多様性に富んでおり、地球のバイオダイバシティ（生物多様性）の一〇パーセントが、我が国にあります。まず一番目には、鳥、蘭、椰子の木。次は世界第二位のバイオダイバシティの両棲類、植物、そして三番目が爬虫類です。

多様性は、アンデス山脈が最も特徴的で、三つの山脈が南から北に平行して走っていて、地

理的には、カリブ海地域、太平洋地域、アンデス地域、オリノコ川流域、アマゾン流域の五つの地域があり、国の三分の一がアマゾン流域で、ジャングルや熱帯雨林が特徴となっています。これらすべての地域は、気候も違えば、生物多様性なども違っているため、このダイバシティが生まれています。

次に、それぞれの地域についてご説明いたします。

カリブ海地域は、海岸線が一六〇〇キロも続き、砂漠や山、熱帯雨林もあれば、雪の地域もあります。山も海も目を見張るような美しさがあり、理想的な熱帯地方の観光地です。

アメリカの中で、最も美しい都市の一つであるカルタヘナは、カリブ海に面した、一番大きな都会で、世界遺産にも登録されたコロンビアの中でも最も有名な観光地の一つであり、時代をタイムスリップしたような城壁や狭い街路のある、植民地的な景観が残っています。

太平洋地域は、名前のとおり太平洋に近く、海岸線が一三〇〇キロも続き、地上で最も湿度の高い地域です。特定のシーズンには、クジラがコロンビアの海域に来て子どもを産むため、「ホエールウォッチング」ができることでも非常に有名です。

アンデス地域は国の中心部分にあり、ボゴタ、メデジンをはじめとするほとんどの重要な都市がこの地域にあり、最も人口が多い場所です。大多数の開発や産業も、この地域に集中していて、コロンビアコーヒーとして有名なコーヒー地域もあります。

また、アンデスの中心には、世界遺産に登録されたサン・アウグスティンがあり、最も重要

な考古学上の地域になっています。

アンデス山麓からオリノコ川まで広がり、ベネズエラとの国境まで続くオリノコ川流域は、非常に大きな大平原で、石油や鉱物資源にも恵まれています。また、オリノコ川の日没は非常に美しいことで有名で、たくさんの観光客が訪れています。

生物の多様性では世界第二位

アマゾン地域は、〈地球の肺〉、又は〈動植物の遺伝的な種の宝庫〉とも言われ、アマゾンでは、様々な体験ができます。例えば、ジャングルに行くこともできますし、ヴィクトリアルギアという世界最大の睡蓮や、ピンクドルフィン（ピンクのイルカ）も見ることができます。変化に富んだ気候や、肥沃な土壌のおかげで、いろいろな動植物を育てることができますが、最も有名なものは、コーヒー、カーネーションなどの切り花で、エメラルドも非常に人気があり、これが世界に輸出しているコロンビアの主要三品です。ほかにも、生物多様性が豊かで、世界の第二位となっており、カルチャー、文化遺産、様々なお祭りもあります。

コーヒーは、皆様方もよくご存じだと思いますが、二〇〇万以上の世帯がコーヒーの栽培により生計をたてており、我が国の経済を支えている最も重要な生産品です。長年にわたり、日本のコーヒーマーケットは成長しており、今では、コロンビアコーヒーにとって、日本は世界で二番目に大きな市場です。また、コロンビアコーヒーのシンボルになっているホアン・バル

デスの顔は、アメリカのコンテストで、〈北米で一番有名なシンボル〉を投票したところ、ナ
イキヤコカ・コーラなどの様々なブランドがある中、二位に選ばれています。

切り花も、世界で楽しまれていて、世界第二位の〈花の輸出国〉となっています。色も鮮やかで、三週間から四週間も長持ちしますので、値段は高くても、「コロンビアの花の良さ」は高い評価をいただいて、日本でも切り花の輸入は増えており、中でも、カーネーションは日本が主な市場になっていて、切り花は、輸出品の非常に大きなものとなっています。また、ハitekを駆使し、新しい品種の開発なども行なっており、いま非常に発展している部門です。

先ほどもお話しましたが、バイオダイバシテイ、生物多様性が非常に豊かであり、この分野に関しては、コロンビアはブラジルに次いで世界二位となっています。ブラジルの国土面積の二五パーセントしかない国が二位であるということは、本当にすばらしいことだと思います。表土の下の上壤は、多くのミネラルを含んでおり、石油も、オマーンほどの量はありませんが、生産しています。さらに、ニッケル、鉄、石炭なども産出していて、コーヒー、ニッケル、鉄、切り花は、日本への主要な輸出品目となっています。また、世界で初めてのエメラルド産出国であり、品質もよいため、日本の宝飾品市場でも多用されています。

高い文明を持っていた先住民族

次に歴史についてお話したいと思います。

コロンビアに最初に住んだのは、非常に高い文明を持った先住民族であり、この文化遺産のシンボルとして、黄金博物館があります。この中には、スペイン人が来る前の、貴重な金による作品のほか、陶器、石器、貝、木工品、繊維製品等が展示されており、昨年、上野の科学博物館でも公開し、たくさんの方に見ていただきました。

コロンビア人の感覚をわかっていただくのには、「お祭りが好きだ」ということを言わなければなりません。一一〇ほどのお祭りが一年中開催されており、ほかにも、美人コンテストやいろいろなフェア、展示会も開催され、国民は、さまざまな行事を楽しんでおり、本当にハッピーな国だと思います。

有名な balan キーヤカーニバルは、毎年、二月、三月の、世界で最も有名なブラジルのリオデジャネイロのカーニバルと同時期に開催されますが、このカーニバルは一九世紀に端を発するもので、人類の口承、無形遺産の傑作の一つとして世界遺産にも登録されており、カーニバルの期間中は、みんなが街路に繰り出して、仮装パレードや音楽に合わせて踊ったりするため、カルタヘナに近いカリブ海地域も街の機能は麻痺します。

ほかにも美しいイベントとして、八月の最初の二週間に、メデジンで開催されるフラワーフェアがあります。

この祭りは一九五七年から行われており、フェアのハイライトは、デフィイルデシゲットロスと呼ばれており、新鮮な花を飾った木工品を背負った農家の人たちがパレードするのです。

美しい色と香りデザインによるパレードは、最も美しいデザインで、最も美しい花を飾っ

た人が、優勝します。フェアは、その地方の祭日となっており、いろいろなクリエイティビティやアイディアが披露され、多くの農家の人たちが、このパレードに参加します。

日本とは百年を超える友好関係

次に、日本とコロンビアの関係についてお話ししたいと思います。

両者は長い関係をもっており、大統領は、昨年、ペルーのリマでAPECの会合があった時に麻生総理と会談をしています。また、昨年は、一九〇八年の五月二五日にワシントンDCで、日本との友好通商航海条約が結ばれた百周年にあたりました。この条約の調印後、両国が政治経済、文化的な理解をするということを柱に、国交を樹立いたしました。

現在は、貿易、文化交流など、様々な協力関係にあり、例えば、二国間の投資協定が近々調印の運びになり、年末までには両国の条約ができるのではないかと思っております。

そうなれば、日本からの投資や、コロンビアをベースにする日本企業も増え、商業交流も盛んになると期待されており、また、様々な見本品が日本の市場に入ることも考えられます。切り花が良い例で、数年前にはコロンビアの切り花のことは日本では知られていませんでしたが、今では、最大の輸入国の一つになっています。様々なサンプリングにより、どのような品目が日本への輸出の可能性があるかということを検討しているところであります。

日本からは、四回、移民を受け入れていて、最初はカリブ海地方から入ってきましたが、その

後、太平洋から入って来るようになりました。第一陣は一九一五年で、第二陣は一九二九年と一九三五年です。バランキージャという所に入植し、カリブ海地方に行くようになりました。

多くの日本の移民の方がたが、どういうきっかけで移民されたかと言いますと、驚くべき話なのですが、コロンビア人が書いたロマン小説・恋愛小説である『マリア』という小説が原因となっているのです。「マリアがいる天国のような所を捜しにいこう」ということで、コロンビアに入植されたのです。

勤勉な日本の人たちが、今世紀の初めからずっとおられ、バジェ・デル・カウカ県の発展にもご尽力いただけたと思います。そのおかげもあり、農業が発展し、産業として、瀬戸物も盛んに作られるようになりましたが、これは、日本からの移民の方がたが、最善の技術と、高い水準の品質を持つておられていたためであります。

今でも質が高い美しい陶器が作られておりますが、この地域だけではなくて、コロンビア全域で作られるようになっております。また、コロンビアは、さとうきびの生産でも知られておりますが、最初の技術は日本から導入されました。

進歩してきた女性の地位

また、女性の地位は、非常に重要なことだと思っています。

一週間前に、国際婦人デーのお祝いをしましたが、重要なこととして盛大にお祝いをする

ようになつていて、大統領から、「女性の役割、女性がどこまで進歩したのか」ということについてのお話もありました。

女性参加も、今ではいろいろなことが進歩しています。一九三三年には、女性は、中等教育までしか受けることができませんでした。一九三四年十二月の議会で、女子も高等教育に進むということが決められました。

その後、一九四二年に、大学を卒業した女性弁護士が初めて誕生しています。

それ以外の主要なできごととしては、一九五四年に女性の参政権、投票権が獲得され、一九五七年に実行されました。また、女性閣僚が初めて任命されたのが一九五六年です。現在は、女性が高い地位に就くというに関しても、非常に進んでいると思います。しかも、長年にわたり、政治の世界でも、女性議員はたくさん存在しており、経済や文化の領域など、あらゆるセクターでも、女性が参加しています。

相対的に見て、国民は若く、人口の八割以上が五〇歳以下ですが、多くの人たちがこれからキャリアを積み、国のための生産活動に勤しむ状況にあり、非常に素晴らしい、明るい将来があると思っております。

特に、驚くべきことですが、コロンビアの女性は、男性よりも高いレベルの教育を受けており、この事実が女性のエンパワメントに多く貢献したと思っています。

一九一五年、二〇年、一六―二六年ということで、女性が教育に参加をしている状況も、男女の比較も、出ています。今では、多くの女性が大学に行っており、男子よりも大学進学率が

高く、女性が政治的な意思決定にもアクセスできるようになっており、様々な分野、例えば、官民双方の分野、学会、また芸術文化の分野においても、高いレベルでの活躍が見られます。女性の閣僚も、国会議員も、外交官もいて、外交官の二三パーセントが女性です。

また、金融部門でも女性の参加率が高く、実は私も、日本に来る前は金融部門で仕事をしておりまして、この部門に本当に多くの女性がいるのに驚きました。銀行のマネージャーや支店長、或いは銀行の頭取にも多くの女性がいますが、「女性のほうが男性よりも、お金の管理が上手だ」ということだろうと思います。さらに、裁判所においても下級審から上級審、最高審にいたるまで女性が参加しています。

女性のものの考え方は、「伝統的なラテン的な女性的なものの考え方」、すなわち「子どもや家庭を大事にする」ということと、「近代的な女性としての考え方」がミックスされ、「毎日、最高の形で充実した一日を送りたい」というのが主流だと思います。

これまでの三〇年間で、女性は労働市場に対する参入を、三〇パーセントから六〇パーセントと倍増しており、今では女性は、家族の収入のうち四〇パーセントにあたる非常に大きな収入を得ています。

男女平等に満足しているコロンビアの女性

先週、国際婦人デーがあり、様々な部門で、様々な年齢層の調査を行いました。

これによると、六一パーセントの女性は「自分が大切にされている」と感じており、六八パーセントの女性は「男女の差別はない、機会が均等にある」というふうに回答しており、一般論として「コロンビアの女性は、社会における役割に満足している」という結果がでています。また、七八パーセントの女性は、「自分たちは働く女性である」と定義し、六三パーセントが「アントレプレナー（起業家）」で、四五パーセントが「インテリ（知識人）」である」と、自分を分析しています。

政府のプログラムでは男女平等を促進し、社会的ギャップを削減しようとしています。その一つのやり方として、女性平等のための大統領諮問局がつくられており、重要な役割を果たして、女性の健康、権利、そして平等の改善に務めています。

二〇〇〇年にコロンビアの議会が、クォータ制に関する法律を承認しており、「あらゆる公共行政の場において、地方でも国のレベルでも、三分の一は、女性が占めなければならない」としています。

私は、「コロンビアは女性の分野では大きく進歩してきた」という確信を持っていますが、まだまだやらなければいけないことや、開けていかなければならないドアも、たくさん残っています。「男女平等」ということは、賃金とか機会の均等だけではない」と思っています。

皆さん、ぜひ、ぜひコロンビアにいらっちゃって、コロンビアがどんなことを実現しているのかを、ご自分で感じ取っていただきたいと思います。

太平洋と大西洋に接するコロンビア

コロンビアは二つの海に接しております。自由の風がそよぐ海岸線は、この陸地が形成された時からの特徴です。足を触れる水がカリブ海なのか太平洋なのかに関係なく、コロンビアでは、各地域の自然の美しさを残した素晴らしいビーチが、何キロも果てしなく続いています。

北の大西洋地方では、昔から伝わる慣習やカリブ文化が溢れ、西の太平洋地方では、豊富な農産資源と人びとの温かさで知られています。この二つの楽園では、毎日、夕日が落ちるたびに、太陽と海が溶け合う様子が見られます。

〈フェスタ〉は、人びとの喜びを表現し、国民四三〇〇万の魂を集め、生命に感謝するとともに、この素晴らしい国であることへの敬意を表したイベントです。

九四を超えるお祭りと一一〇のフェスティバル、四六の縁日に三二のミスコンテスト、五つのカーニバル、そして、四四の展覧会が開催され、毎年、コロンビア国民の明るさを象徴しています。すべてのイベントが、農業やその土地に棲息する動物、民族の素晴らしい伝統への誇りを表しています。縁日や祭りは国民に定着しただけでなく、その国際色あふれる特色から、世界中でも感謝と誇りの気持ちが共有され、愛されています。

コロンビアのように様々な要素が溢れる国で、皆さんは、どんなことをやってみたいでしょうか。

コロンビアには、三四の自然公園があり、その美しさを世界に証明できる多くのエリアを保護しています。コロンビア国民は、その昔から、この自然を享受してきました。自然保護区では様々な活動ができますが、それというのも、多様な気候、温帯、そしてあらゆる生物の様ざまな種が存在しているからです。

アマカヤコス自然国立公園のようなアマゾンの熱帯雨林保護区は、ピンクドルフィンの生息地であり、またコロンビアの美しさの象徴でもある蘭の生息地でもあります。そこには、三千種あまりの蘭があります。また、ネバートデルウイラ公園の上空には、アンデスコンドルが、飛んでいます。

これらは、コロンビアの雄大さと環境保護文化を紹介する例の一部にしか過ぎません。

しかし、これらの土地は、自然の多様性が保護されているだけでなく、公園に訪れる人びとは、元来、その地域にあった先住民の文化や受け継がれてきた様々な知識に触れることができます。ムカック公園やピカトス公園、プイナウイ公園などでは、このように祖先から受け継いだ伝統を、目の当たりにすることができます。

伝統的な建築様式を残した土地にも、コロンビアの誇りは示されています。

博物館には過去と現在を結びつける宝石等が展示されていますし、路地や広場、モニュメント、そして村全体の風景が、唯一無二の国家が築かれた歴史的瞬間を呼び覚ましてくれます。

コロンビアのビーチ、砂漠、山、平原、川、セルバのどこに行っても、素晴らしい景観を楽しむことができます。

山々が連なるコーヒー生産地区では、何千というコロンビア人の手によって、やさしい香りのコーヒーが生産されており、世界中でその味が愛されています。また、東の大平原では、その土地独特のウシ科やウマ科の動物が棲息しています。

大昔から自然に恵まれた土地が、コロンビア人の手によって開発され、自然と共生する街が形成されています。首都のボゴタは、西洋文化が入ってきて以来、それが非常に良く保存されていることから（南米のアテネ）とも言われています。また、メデジンは、努力家が多いコロンビア人の国民性を代表する都市です。この二都市以外にも、それぞれの分野で経済発展を遂げた都市があります。例えば、カルタヘナは観光産業、サンタマルタは漁港、そしてカリは、工業が集中しています。

以上がコロンビアの紹介となります。コロンビアは「二つの国」であるという以上に、（すべてのことが可能となる楽園）と言えるでしょう。生活を楽しめる、とても華やかな楽園であり、あなたの人生の素晴らしい瞬間を見つけられる楽園と言えるでしょう。ぜひコロンビアへ足を運んでみて下さい。

〈ニューサムライ〉の国、ニュージーランド



ニュージーランド 特命全權大使
イアン・フォーブス・ケネディ閣下

皆さん、こんにちは。本日は皆さんにスピーチさせていただくことを大変うれしく思います。

今日は三つの事柄について話したいと思います。

第一にニュージーランドの国柄と国民性。第二にニュージーランドの男女共同参画。第三にニュージーランドと日本の関係です。

まず初めに、私のスピーチの要旨を申し上げます。

第一にニュージーランド人と日本人は、文化や言葉の違い、地理的な距離にも関わらず、多くの事柄について、同じように関心や価値観を共有しております。つまり、両者は〈本質へのこだわり〉を持っております。そのため、私は、両国の国民を〈オールドサムライ〉と〈ニュ

「サムライ」と名付けました。

第二に、家族、ビジネス、そして国の成功は、「男女平等」そして「男女双方の貢献を価値あるものとして実現すること」で生まれます。

第三に、ニュージーランドと日本の経済は、本質的には相互補完的です。両国は、二国間関係から、アジア・太平洋地域の観点からも、さらに、グローバルな観点からも、自然なパートナーであります。両国が互いに利益となる（ウィン・ウィン）の関係を築く分野で協力できる余地が大いにあります。

次に、ニュージーランドの国柄と国民性についてですが、今からおよそ六千万年前、古生代の中期から後期に、ゴンドワナ大陸の一部が海の底深く沈み、およそ一千万年前に大規模な地殻変動でニュージーランドが現在の形で海面に浮上しました。

自然の偉大な力によって土地が形づくられたニュージーランドは、世界で最も若い国であり、原始の力の巨大さを象徴する国です。

マオリの伝承によると、「クベという名の偉大なポリネシアの船乗りが、ニュージーランドを発見した」と言われていますが、正確な年代は不確かです。しかし、考古学的資料によると、七艘のカヌーに乗ったマオリの人たちが南太平洋からニュージーランドに到着したのは、一三五〇年頃でした。

海の民である日本人の皆様には、海がどれほど手ごわい存在であり、ワカと呼ばれるカヌーで星だけを頼りに海を旅することがいかに危険かを、おわかりいただけだと思います。

同様に、マオリ語でパケハと呼ばれるヨーロッパ人の最初の入植者たちが、インゲランド、アイルランド、スコットランド、ウエールズから、小さな帆船に乗って広大な海を渡り、ニュージーランドへ旅だった決意と勇氣は、賞賛に値するものと思います。

彼らは、強い精神と肉体を持っていました。ある人は、旅半ばで倒れ、また、ある人は船の上で産ぶ声をあげました。

入植者たちは、ニュージーランドの〈へより良い暮らし〉を夢見ていました。しかし、ニュージーランドへの上陸は「旅の終わり」ではなく、むしろ「近代的な国家を築く道のりの、最初の一步」に過ぎなかったのです。マーク・トウェインは、かつて、ニュージーランドを、「天国を目指して、途中で間違えて目的地に着いた」と思いこんだ人たちによってつくられた国だ」と述べました。この言葉には真実味があります。

ニュージーランドは、多くの固有種の動物や植物に恵まれています。シルバー・ファーンと呼ばれるニュージーランドのシダ「うらじろ」は、国の象徴として、または、オールブラックスのユニフォームの飾りとして、良く知られています。それだけではありません。ニュージーランドの固有種の数多くの花や樹木は、素晴らしい景色をつくり出しています。とくに、高さ五〇メートルにも達するカウリの木、そしてリム、マタイ、トタラなど、多くの樹木が緑の天

蓋をつくりだしている様子は、息を飲むようです。

日本と協力して、世界の未来を拓く努力を

それでは、自分たちの国と世界に対して抱く、ニュージーランドの将来の夢は何でしょうか。今日のニュージーランドの夢は、もはや、「マオリのみ」または、「パケハのみ」の夢ではなく、マオリやパケハ、そして南太平洋、アジア、アメリカ、アフリカ、中近東からの移民が作り出す活気溢れる多文化社会がみる夢です。そしてこの夢は、ひとびとの希望、明るい未来、リーダーシップ、信頼性を生み出しています。

ニュージーランドは、優れた結果を生み出す努力や、平等、社会正義によって、人間が何を成し遂げられるかという例を国の内外に示めそうとしています。ニュージーランドは世界の国々、特に日本という隣国と協力して、不屈の精神、強い意志、誠心誠意を尽くす態度を持って、世界の将来に向けて共に歩んでいくことを望んでいます。

ニュージーランドは、一八九三年に、世界で初めて女性に参政権を認めました。

しかし、女性が国会議員として立候補する参政権が認められるまでには、さらに、二六年がかり、国会議員であった夫の死に伴う補欠選挙で最初の女性国会議員が誕生したのは、一九三三年のことでした。

最近は、総督、首相、最高裁判所長官、国会議長といった国家の要職が女性によって占められた時期もあります。しかし、これらの例がすぐ引き合いに出されるのは、今も、それが珍しいからであり、このように女性が頻繁に重要なポストに就くのは、「当然のこと」ではなく、「保障されているもの」でもないからだ、と思います。

国民党政権は、人種間の調和と男女共同参画への取り組みを優先的に行うことを目指し、次のような政策をうち出しました。

まず、韓国系ならびにイングランド系ニュージーランド人を、初の国会議員として送り出すために、少数民族の候補者を、党の立候補者名簿の上位にランク付けしました。

第二に、国民党連立政権は、すでに議会の過半数を超えており、新たな連立パートナーの必要性がなかったのにもかかわらず、マオリ党に対し、連立政権への参加を促しました。

このマオリ党への提案は「調和の重要性」と「少数民族の意見も取り入れる」という、強い決意の現れを示しました。

第三に、国民党内閣の閣僚二〇名のうち、女性大臣を六名、任命しました。

第四に、新内閣には、初のアジア系ニュージーランド人を入閣させました。中国系ニュージーランド人であるパンジー・ウォン氏は、民族問題担当大臣ならびに女性問題担当大臣に就任しました。

パンジー・ウォン大臣は、上海に生まれ、五歳のときに家族と共に香港に移り住み、十九歳の時にニュージーランドに渡りました。そして、一九九六年に、ニュージーランドで最初の、

アジア系国会議員になりました。

ウォン大臣は、女性問題担当大臣就任後のスピーチで、彼女の世界観を語りました。

その中で、「女性が自分の人生をどのように生きるかを自らの意思で選択し、その選択肢の中での個人の貢献は、経済活動はもとより、自らの家族や地域社会への貢献も正当に評価されるべきだ」と述べました。ウォン氏のビジョンには、「望めば男女が共に子育てに責任をとれる社会」が含まれています。さらに、「家庭に入って子育てをする女性が尊重されるように固定観念を変える必要性」についても話されました。

大臣はまた、「家庭内暴力」の問題についても言及しました。統計によると、ニュージーランドでは、女性が二六日ごとに一人の割合で、パートナーまたは元パートナーの手にかかって死亡しています。この痛ましい光景を目撃した子どもたちは、生涯にわたる心の傷を受け、成人してから、自らが加害者または被害者となる可能性が高く、この痛ましい悪循環は続くことになります。

新政権下で最初に導入された法律の中には、「家庭内暴力の被害者を、裁判所の手続きを経て保護するのではなく、より迅速な対応として、加害者に対して被害者への接近禁止命令を即座に下す権限を、警察に与えたもの」があります。

二〇〇四年に、前労働党政権は、「二〇一〇年までに、政府系機関の理事会・委員会の男女比を五〇%にする目標」を挙げました。現在、政府機関の上級管理職に女性が占める割合は、四一%です。目標値には到達していませんが、民間部門である上場企業の上位百社の女性役員

の比率が九%にすぎないことを考えますと、まずまずの成果であるといえます。国民党政権も、女性比率五〇%の達成を目標とし、公共分野だけではなく民間企業とも協力して、この不均衡の是正に取り組んでいます。

ニュージーランドでは、女性が「自らの最大限の可能性を実現できるように保証する」という課題は、「人権」と「平等論」を超えています。

「女性だから」という理由だけで、役職に任命すべきだ」と言っているわけではありません。女性は全人口の過半数をわずかに超えており、平均寿命は全体的に男性よりも長いのです。国際的な調査によると、「男女がバランス良く役職に就いている企業であればあるほど、業績が順調な企業リストのトップに名を連ねている」とのことです。ですから、ビジネスや社会における女性の全面的な参画は、経済的にも理にかなったことなのです。

女性の社会進出は、男性の犠牲の上に成り立つ必要はありません。実際、女性の進出には男性の支援は不可欠です。男女共同参画とは、「これまでと同じ大きさのケーキを、小さく切り分けること」を強いるものではなく、「みんなが協力して、これまでより大きなケーキを作ること」、つまり、すべてのレベルで、さらによりい解決策を導き出すことにあるのです。これは、すばらしいビジョンです。私は同じ論理が、日本とニュージーランドの関係にも当てはまると考えています。

ニュージーランドと日本との関係は、最も揺るぎのない強固な関係の一つとなりました。

距離や文化の違いこそありますが、両国には多くの共通点があります。共に島国であり、また公平なチャンスとビジネス活動を行う土壌が、既に確立されています。また、民主主義、人権の尊重、法の支配に対し、同じ価値観を共有しています。「パートナーとしての相互の信頼」、「双方向の輸出品の品質の高さ」、「困難を共に乗り越えるに充分な深い理解」の上に築かれている関係です。

現在、日本は、ニュージーランドにとって、第三位の輸出相手国であり、全体で第四位の貿易相手国となっております。双方向の投資は、お金の流れだけではない、それ以上の成果をもたらしています。教育、観光、ビジネスから生まれた人的交流は幅広いものです。

例えば、JFTプログラムは、多くのニュージーランド人に日本を体験する機会を提供しています。つい先頃は、日本政府の提唱によって始められた、フューチャー・ビジネス・カウンタート・インヴェイション・プログラムによって、ニュージーランドの若い社会人が、日本に招聘されました。このような新しい動きを、私どもは歓迎しております。

一方では、ニュージーランドの四八都市が、友好をさらに深めるために、日本との姉妹都市関係を結んでいます。大学など、高等教育機関を通じた幅広い交流活動も、大変盛んです。

ニュージーランドと日本は、アジア・太平洋地域のパートナーとして、地域統合に共に強い関心を持っております。

ニュージーランドは、太平洋諸国フォーラムの創設メンバーであり、日本は、フォーラムの

重要な対話のパートナーです。

ニュージーランドは、東アジア包括的経済連携(セピア)や、東アジアサミットなど、アジア太平洋の地域協力や統合に向けたメカニズムの構造を、全面的に支援しております。私たちは、日本がニュージーランドを、ASEANとの六か国のパートナー国の一つに加える役割を率先して担ってくださったことを、大変感謝しております。

日本とニュージーランドは、朝鮮半島の非核化や台湾海峡の安定を含む多くの基本的な安全保障についての関心を共有しております。両国は共にASEAN地域フォーラムといった地域の安全保障構築に力を注いでいるのです。例えば、インド洋での給油任務といった世界規模での日本の貢献を、ニュージーランドは歓迎しています。この作戦のもとで配備していたニュージーランドフリゲート艦への日本の給油支援に対し、私たちは大変ありがたく思っております。また、日本を含む軍縮および核の非拡散問題への私たちの取り組みも、高く評価されております。この分野における国際協力は、この地域の安定には不可欠です。

ニュージーランドと日本は、国連総会で緊密に協力しております。両国の機関は拡散防止構想への協力など、大量破壊兵器の広がりを阻止するために、共に活動しています。より深い意味では、ニュージーランドは、安全保障理事会で日本の地位が高まるように強く支持しております。

スポーツの分野においても同様で、日本とニュージーランド両国が、それぞれ思い入れを持つ、柔道、マラソン、ラグビーには、「直接体をぶつけあい、忍耐を必要とする」などの共通

点があります。全て「本質へのこだわり」ではないでしょうか。

両国は、新渡戸稲造氏が書いた『武士道』に表された美德にも、同じ価値を見い出せます。このような理由から、私は日本を「オールド・サムライ」、ニュージーランドを「ニュー・サムライ」と命名しました。

私たちはダイナミックで急激な変貌を遂げる世界に住んでいますので、私たちが互いに構築している関係は、より広範な状況の中で考えられねばなりません。北京オリンピックでは、世界最高レベルの戦いが、競技者たちに自己ベストや数々の世界新記録を樹立させ、それを私も興奮して観戦しました。

そしてオリンピックが私に教えたもう一つの公理は、チームが一丸となったとき、個々の単純な足し算より強力であるということです。それを示す良い例が陸上の四〇〇メートルリレーで銅メダルを勝ち取った日本チームの見事な活躍です。彼らはチームとして、それぞれが持つ能力をはるかに超え、その結果として銅メダルだけではなく、国民の心までも勝ち取りました。その秘訣は、「一丸となったチームは、単なるエキスパートの集団を打ち負かせる」ということです。同じ原則が、人間のさまざまな取り組み、特に国際貿易にも当てはまります。

ドーハ・ラウンドの成功は、ニュージーランドの貿易政策における最優先事項です。多角的体制に基づいた取り決めには、大きな利点があります。そしてWTOが私たちの最優先事項であることに変わりはありませんが、一極集中は避けねばなりません。そこでニュージーランドは、特にアジア・太平洋地域において、パートナー諸国と新たな貿易上の提携を考えております。

私たちは最初、二六年前にオーストラリアと自由貿易協定を結びました。二〇〇七年まで、あつという間でしたが、タズマン海を行き交う貿易は、年平均九%の伸びを見せており、これは、オーストラリアとニュージーランドの経済成長を合わせた以上の成長率です。

ニュージーランドは、さらにシンガポールおよびタイと経済連携協定を、またブルネイ、チリ、シンガポールとは太平洋間戦略経済連携協定（P4協定）を結び、二〇〇六年に実施されています。P4協定は、他の国々の参加も可能であるため、アメリカが関心を示しました。その後、アメリカ、オーストラリア、ペルーは、協定に参加する交渉を開始することを示唆しています。この交渉が成功すれば、初の太平洋地区のFTAが成立することになります。

同じく意義深いことには、二〇〇八年の四月に、ニュージーランドはOECD諸国としては初めて、中国とFTAを締結いたしました。八月には、オーストラリアと共に、ASEANとのFTAの交渉を終えました。さらに、湾岸協力会議、香港、マレーシアとの交渉が始まっておりますし、韓国との予備協議も始まりました。

一方、日本は、ASEAN、オーストラリア、ブルネイ、チリ、インド、インドネシア、韓国、メキシコ、シンガポール、スイス、タイ、湾岸協力会議、フィリピン、ベトナムと、活発に協定の交渉を進め、締結を行なっています。

さらに、ニュージーランドと日本は、共にAPECや東アジアサミットの中で、広範な政治や安全保障の問題はもとより、地域内のより緊密な政治統合に向けた話し合いにも参加してい

ます。

このように地域的な経済協力の新たな枠組みが次々と構築されていく中で、まだ進展してないのが「日本とニュージーランドとの経済連携協定」です。友好国であるのに、これは適切でないと感じます。私たちは、日本がニュージーランドを「EPAを結ぶ候補国」として考えてくださっているものと願っております。

日本の農業は、長年にわたり政治的に慎重な対応が求められる部門であることを、私たちは十分認識しています。そして、「これらの懸念をうまく対処できる方法は見つけられる」と信じています。

二一世紀に入り、世界の食糧供給は、新興国の中流層の増加に伴う需要の高まりなど、人口増大による食糧需要の増幅によって、大きなプレッシャーにさらされています。

このような状況において、日本のような食品輸入大国には、サプライチェーンの確保が死活問題です。だからこそ、今、「輸入相手が必要なニュージーランド」と「輸入国である日本」との利害関係が、今まで以上に合致したものになります。

観光分野でも、ニュージーランドへの旅行を促進することで生まれるビジネスチャンスが、日本にあります。日本を観光地としてニュージーランド人に売り込むチャンスもある、と思います。

これらの理由から、クラーク首相と福田元首相が、日本とニュージーランドのFTAの可能性について、共同研究に着手するよう、関係者らに指示したことは、計り知れない意味合いを持つております。貿易条件の改善に加えてFTAが締結される上で、根本的に重要なことは、それが皆の期待感を高め、グローバルな世界の地域パートナーとして、協力機会の限界を広げるような発想をかき立てることになります。

ニュージーランドは、日本との関係を、全てのレベルで前進させたいと考えております。

「オールド・サムライ」である日本と「ニュー・サムライ」であるニュージーランドが、多くの似通った考え方と利害関係を共有していることは明らかです。

特に、日本とニュージーランドは世界に対して信念を持ち、「建設的で積極的なアジア・太平洋地域の国家」という、共通の立場となっています。つまり、「日本とニュージーランドが、互いにwin-winとなる分野が幅広く存在している」というわけです。これこそが、私が思い描く将来の二国間関係です。それは、日本とニュージーランドが、世界で最も活気溢れるこの地域の、エキスパート・チームになれるというエキサイティングな未来です。

ご静聴、ありがとうございました。

世界各国の、すばらしいお話をうかがって

下村館長 さて、ここから、パネルディスカッションになりますが、各国大使のお話をふまえた上で、あまり格式張らずに、「個人」の、「各大使のお宅」の「男女共同参画」なども含めて、お聞きしてみたいと思います。

最初に、オマーンの大使のお話を伺いましたが、実は、私は先ほどオマーンへの訪問者の間に手を挙げた、唯一の人間です。

ジャーナリストとして、三十数年前、ちょうど大使が「平和的クーデター」とおっしゃいましたが、その革命が一九七一年に起こった直後に、オマーンに取材に行きました。それは、まだ石油危機の直前で、中近東、特にオマーン、アブダビ、ドバイ、カタールなどの湾岸諸国のことを皆さんがあまり知らない時代でしたが、実は、オマーンと日本は、非常に深い関係がありました。現国王の御祖父様にあたる方は、諸国漫遊をなさり、特に東洋がお好きで、身分を隠して神戸に立ち寄った際に、ある日本の女性に恋をして、王位を捨ててその女性と結婚してお子さんも産まれ、お家も建てて、「日本にずっと住む」と決めたのです。

しかし、その愛する妻が三年後に亡くなり、亡くなった奥様のために立派なお墓を作り、娘である王女様を連れて、愛する女性のいなくなった日本を去り、ご自分の国に帰られたのですが、その後、第二次世界大戦が起こり、まったくの音信不通になってしまい、何十年か経過して、こちらの親戚が「一体あの王女様はどうされているのか」と探したのですが、消息は不明でした。最終的に、私が王女様を探してインタビュをしました。その時に、オマーンはクーデターが起こっていて、先ほど大使が「病院もほとんどなくて、医者も九人しかいなかった」とおっしゃっていましたが、まさにアラビアン・ナイトのような世界、逆に言えば古き良き時代でした。ラクダの背中に乗ってトコトコ進む脇をキャデラックがバーツと走っているような。そういう所で王女様にお会いして、インタビュをしました。それが私の最初の本です。

その後、オマーンのみならず、アブダビなどの湾岸諸国にも行きましたが、あの当時、アラブ諸国では、女性は「人の前で、特に男性の前に絶対顔を見せないよう」黒い、チャードルというヴェールをかぶっていました。私は女性だったので、ラッキーマンにも、アブダビのファーストレディを含めた女性の皆さんにお会いできたのです。

先ほど「スーク」とおっしゃいましたが、市場に行くと、男性ばかりでした。買い物をして、男性が料理もするのかと思つて、感心、感激していましたが、実は、女性は、そういう場所で見せられないために、多分、男性が買い物していたというのが実情で、そういう時代から現在まで、女性を取り巻く状況には急激な変化がありました。今はそういったヴェールなどを被ったりしなくてもよいのでしょうか？

ムスラヒ大使　ここから見えますでしょう。女性がどういふ格好か（アビール夫人と令嬢のア
リージさんを指して）。

下村館長　「外国だから」ということがあるのでしょうか？

ムスラヒ大使　国内でも、ヴェールをかぶっている場合もありますが、今では規則はありません。ヴェールを被らないという女性もたくさんいますし、被っている人もいます。それは宗教的なことです。でも、顔まで隠すという方は、いなくなっていると思います。砂漠にでも行きますと、そういう人はいるかもしれません。伝統的なマスクを被っているという人もいるかも知れませんね。

でも、今お聞きした、あなたのお話は凄いですね。聞き入ってしまいました。

オマーンにおいでになったのは、まさに国が生まれた直後だったのです。七〇年代というのは、本当に暗黒時代からオマーンが生まれ変わった時でした。単純な例を言いますと、去年の北京オリンピックは、オマーンにとって大イベントでした。別にメダルを取ったというわけではなく、「初めて女性の選手が参加した大会」で、これは本当に大変な出来事でした。それまで、女性がオリンピックに出場するということは、想像も出来ないことでしたので、女性が選手団の一員になるということは大変なことだったのです。

下村館長　去年突然そういうことになったのは、国王が何かおっしゃったか、誰かがリーダーシップをとったからなのですか？

ムスラヒ大使　「着実にそういう方向になってきた」ということだと思います。学校でもスポ

ーツをするようになりましたし、選手権とか、いろいろなことが開かれるようになりましたし、「自然に進展した」ということだと思います。女性の選手も、ちゃんとした国際的な競技に出るような状況になったんだと思います。

去年は、オマーンのプロのテニス選手が日本でプレーしましたよね。「オマーンの女性にプロのテニス選手がいる」なんて知りませんでしたし、「日本でプレーする」ということで、驚きました。本当に驚くような大きな進展があったと思います。

下村館長 大使がご存じなかったとは、凄いことですね。オマーンは、さっき大使もお話しされていましたが、現国王のお父様が独裁政権を執り、ラジオも旅行も禁止されて、国外だけじゃなくて国内の旅行も禁止されるというような、江戸時代のような鎖国をしていましたが、ちょうど江戸時代から明治維新で変わったときのように突然近代国家になって……、明治維新後の日本は急激に近代化しましたから、多分それと同じスピードで進んでいるのではないかと思うのです。

ムスラヒ大使 そのとおりですね。別の例を言いますと、私には伯母と叔母が八人いますが、その八人も、私の母も、読み書きが出来ません。私には姉妹が八人いて、二人が医者に、一人が石油エンジニアに、二人が学校の先生に、そして二人は会計士になっています。女性は読み書きもできなかったという時代から比較すると、今の女性は高度に訓練を受けて、プロフェッショナルになっているということがわかります。それが四〇年の間に起こったのです。

もう一つの例を言いますと、数年前、一九六八年に発行された私の母親のパスポートを見つ

けましたが、その時にびっくりしたことが二つありました。まず一つ目は、「女性がパスポートを持てた」ということです。二つ目は、「写真」です。パスポートには「女性だ」と記載されているだけで、写真がありませんでした。そこで母に聞いたところ、非常に病気が重くて外国の病院に行かなければならず、父親のいろいろな影響力を行使してパスポートを取ったが、「女性の写真は撮れない」ということで、「これは女である」ということが記載されただけだった、ということでした。（館内から驚きの声）

下村館長 それにも関わらず、いま何うと、女性の大臣もいて、日本よりも遥かに先を行っているような気がして、私は日本の女性の地位の向上の遅さにガッカリしました。

コロンビア大使のお話も、非常に素晴らしかったですね。「人口の八割が五〇歳以下」というお話があり、理由をお聞きしたら、「わからない」ということでしたが、これは私の勝手な考えではありますが、カトリックの国では人工中絶をしてはいけないから、子どもが多いのでしょうか。あるいは、若いうちに亡くなられるために、若い人ばかりなののでしょうか。どういう背景があるのでしょうか。

教育面でも職業面でも男女平等のコロンビア

カルデナス大使 いろいろなことが組み合わさっていると思います。あなたがおっしゃったことが一番重要なことだと思いますが、ある意味では、カトリックの国であるということは、例

えば政府の政策として「人口を増やそう」ということをしなくても、それをストップすることをしていないと、自らのペースで、どんどん増えてしまいます。「子どもが三人いる」というのが平均的な姿で、今は、子どもが四人というのも結構多いのです。ですから、一人っ子なんというのは、本当に希れで、「コロンビアでは、ほとんどない」と言っているくらいです。また、わが国は、長寿でもあります。さらに、人口は、非常に高いペースで増えています。「若い人が多い」というのは、将来のためにいいことだと思います。

下村館長 うらやましいことだと思います。それと、もう一つ興味深いのは、「女性の教育レベルが男性よりも高い」という点ですが、どうしてでしょうか。

カルデナス大使 わかりません。特に政策でそうしているわけではなく、男と女を、区別していないため、男女ともに同じく勉強するチャンスがあります。そもそも、女性の人口のほうが多く、女性が五二%で男性が四八%だということも、一つの理由かも知れません。

下村館長 コロンビアでは、ほとんどの女性は、仕事をお持ちなのでしょうか。

カルデナス大使 そうです。結婚した後でも仕事を続けます。ある意味では恵まれた状況にあり、いろいろな「子供に対する援助」があります。家族が助けたり、近くにいる家族が助けたり、また、ヘルパーもたくさんいますので。

下村館長 そういう点が日本の悩みなので、後でもうすこし詳しくお聞きしたいと思いますが、もう一つ面白いと思ったのが、「金融部門に女性が多い」という点です。日本ではまったく逆で、金融部門の頭取に女性は一人もいないのです。「金融は男の世界だ」と考えている日本の男性

が多いのは、なぜでしょうか。先ほどからのお話では、「むしろ女性の方がそういうのに長けているのでは」とのことでしたが、日本の経済や銀行が、このようなダメな状況になったのは、「男性ばかりでやっていることが原因なのでは」と考えてしまいました。

カルデナス大使　そうですね。経済危機であつても、コロンビアの銀行には何も問題はありません。あなたが言われたことが理由なのかも知れませんが。女性であつても、きちんと出来る。「女性是非常に正直で、お金に関しては非常に長けている」ということだと思います。

また、女性も大学で財務を勉強し、財務で修士号を取ったり博士号を取ったりしています。チャンスは男女とも全く同じなのです。だから金融セクターにも女性がいてもいいですし、女性もチャンスを持っていて、高いポジションに就くことができます。

下村館長　アメリカの経済がリーマン・ショックに象徴されるような状況になったのは、ほとんどの幹部が男性で、想像を絶する多額な報酬をもらい、潰してしまったのではないのかと思います。その結果、我われも、迷惑を受けました。もし、女性であれば、あのように欲ばつたりしないし、何百億円の給料もとらずに、「もつとみんなとシェアしよう」ということになるのでは、と思います。

カルデナス大使　そうですね。「女性のほうが注意深い」ということは、あると思います。

「三権の長」をすべて女性が占めているニュージーランド

下村館長 私はコロンビアとニュージーランドには、残念ながら行ったことはありません。

先ほどニュージーランドについて、すごいどよめきが起こったのは、一八九三年に「世界で初めて女性に選挙権を与えた国」だということでしたが、私はこのことを知りませんでした。どういった経緯で、そんなに早く選挙権が与えられたのでしょうか。

ケネディ大使 ニュージーランドの女性は凄いです。移民から成った国だからこそ、「もともとこの国よりも良い社会を作ろう」という基本的な考えがあり、「女性も男性も、平等に扱うべきだ」という思いからです。

下村館長 それは女性のほうから、そういう運動などがあつたからですか。男性の議員やリーダーが考えたとしたら、凄いいことだと思うのですが。

ケネディ大使 ケイト・シェパードさんが指導力を持つて活躍しました。実際、男性はほとんど反対だったと思います。詳しく覚えていませんが、当時の首相が女性の参政権を国会に導入しました。皆は反対し、驚きましたが、試してみることになりました。つまり、「男性が指導してやったことではない」と思います。

下村館長 昨年まで、ニュージーランドの首相は女性でしたよね。

ケネディ大使 そうです。一時的に、「ニュージーランドの男性は、いったいどこに行ったのですか?」というような状態になりました。(笑い声)

下村館長 (資料によりますと)二〇〇五年三月に、女性が初めて議会の議長に任命された結果、二〇〇六年の八月までの間は、国家元首は、エリザベス女王、ニュージーランドの総督、三権

の長、国会の議会の議長、首相、首席判事、これが全部女性で占められていたそうです。これはすごいことですよ。

ケネディ大使 同じ時期に優秀な女性が多数現れたので、当然のことながら、重要なポストに就きました。「女性ということで任命された」ではありません。特に力のある、大きな展望を持つ女性だからこそ、選ばれました。

下村館長 「世界で最初に女性が選挙権を得た国だから」ということだからでしょうか。それに対して、ニュージーランドの男性たちの抵抗はなく、「自然なこと」と受け止められているのですか。

ケネディ大使 基本的には「女性でも男性でも、かまわない」ということだと思います。「指導力によって選んだほうが良い」という考えです。東京にいるニュージーランド大使館の職員も、半分は女性です。

下村館長 外交官は公的な仕事だからでしょうが、ビジネスの世界では、どうなのでしょう。女性がビッグビジネスのトップになるのは、アメリカでも、なかなかない」と聞きますが。ケネディ大使 ビジネスは、まだまだ遅れていると思います。大企業の女性役員は、わずか九%です。決して好ましい状況ではない、と思います。いろいろな理由があると思いますが、もう少し見直すべきだと思います。

下村館長 オマーンでは「女性でも高い教育を受けられる」というお話がありましたが、「学校を卒業した後で女性が仕事を持つ」というのは、今では、当たり前になっているのでしょうか。

か。それとも、「あるレベルの女性に限る」ということなのでしょうか。

ムスラヒ大使 資格さえあれば、「社会の、どの階層であるか」ということは、関係ないのです。オマーンは、今、拡大しつつある国ですので、仕事の二割くらいは外国人労働者がやっている場合が多いのです。ですから、チャンスはたくさんありますし、資格が重要になってきます。

非常にいい仕事を得るとなると、競争率も厳しくなってきました。金融セクターの話がありました。わが国でも、金融セクターには、なぜか女性が多いです。オマーンでNo1バンクの、オマーン・インターナショナル・バンクの会長は、女性です。CEOも女性です。多くの銀行でバンクマネージャー、支店長、そういう職は女性が占めています。私の妻も、十年以上、銀行で仕事をしていました。彼女はバンカーです。我が家の財務担当も、金庫番も彼女です。（笑）東京に「アラブの大使婦人会」というのがありますが、彼女が財務担当理事ですから、そこでも金庫番をやっています。

下村館長 お話をお伺いしますと、日本も含めて「それぞれの国の女性が仕事をもつ」というのが、ほぼ当たり前の時代になっているということが言えると思います。

「家庭と仕事の両立」は、どのように実行を

私もずっと仕事をしてきましたし、家庭もありますが、私が大学を卒業した頃は、オマーンではありませんが、「女性は家庭に入って、結婚したら家庭の仕事をする」というのが当たり

前の時代でした。私の母は福島県の出身で、もう九六歳になりますが、ずっと医者の仕事をしてきて、それはとても珍しい例です。そういう母を見てきたので、私も「絶対、仕事は一生続ける」と思っていました。でも、うつかりそういうことを言うと、大人に、「そういうことを、絶対言っちゃいけません」「そういうことを言うと、お嫁にいいなくなっちゃいますから」と言われました。私の同級生と一緒に大学を卒業した女性たちの多くは、非常に有能な人たちも、みんな「家庭に入って何もしていない」という人が多いのです。

その後、日本の女性の状況もどんどん変わって、今は「仕事を持つのが当たり前」。以前は、「結婚しても仕事をやめない。けれど、子どもができたなら、やめる」という人が多かったのですが、今は、子どもができてでも仕事を続けたい」という女性が多くなっています。しかし、その場合の非常に大きな悩みが、どこでも同じだと思えますが、「仕事と家庭の両立」です。とくに子どもが出来た後の育児が、「男女平等」、「男女共同参画」と言っても、やはり女性の肩にかかってきます。アメリカでも、「ダブル・バーデン」、「二重の重荷」を背負っている」という言葉があります。

日本でも、今では、女性でも頑張れば高い地位にも就けるし、高い給料も得られますが、そのためには男性と同じように、競争社会のなかで頑張って働かなくてはならず、家に帰れば、家事・育児・高齢者の介護に追われ、それに耐えられなくなって仕事をやめていく女性が多いのです。

それぞれの国の女性たちには、そういった悩みはないのでしょうか。そして、どのように解

決しているのでしょうか。さきほど、コロンビア大使が「家族などに援助してくれる人がいる」とお話しされていましたが、オマーンでは、どのようなになっていますか。

家庭と職業の両立は必ずしも容易ではないオマーン

ムスラヒ大使 同じような問題があると思います。女性はなかなか仕事を続けにくい時があります。特に子どもが生まれたときは沢山の犠牲が要求されますし、「早期退職して、主婦になって家族の面倒を見る」というケースが多いと思います。家族によつては「お手伝いさんを雇う」とか、「近くに住むおばあちゃんやおばさんなどの親戚に頼む」というところもあると思いますし、保育園もあります。

ただ、「女性がキャリアを持ち、家庭も仕事も両方やる」ということは、試練だと思っています。成功した女性は独身の人が多いです。これはシンブルな話で、ちゃんと成功しようと思つたら、独身でいるしかないのです。私の姉妹が医者になったときにも、「独身になるのではないか、誰が女医なんかと結婚するのか」と思つて心配しましたが、ちゃんと結婚はできました。でも本当に苦労していると思います。

下村館長 オマーンの男性の方は、どのくらい家事や育児を手伝うのでしょうか。

ムスラヒ大使 もちろんベストを尽くします。我われの国では、「子どもの面倒や料理は、妻がやる」というカルチャーです。でも「仕事をしながら家族を支える」というのが、妻の仕

事になっている」のは、宗教も影響しています。モハメッドは、「母の運命のもとに、全ては決まるのだ」ということを予言の中で言っているくらいですから、女性は尊敬されていますが。下村館長 宗教が違っても、同じような状態なのですね。コロンビアは、どうですか。

幼稚園・保育園があり、育児を助ける人も得やすいコロンビア

カルデナス大使 女として大きな試練に見舞われていると思います。バランスをどうとるか、ワーク・ライフ・バランス、これをどういうふうにするかというのは、とても難しいですね。「全部を同時にこなす」というのは「難しいこと」ですが、「不可能なことではない」と思います。私の祖母は九五歳ですが、彼女は政治家で、仕事をしていました。市議会の議員になりましたが、キャリアを続けることはできませんでした。結婚して家族のいろいろなこともありましたが、仕事はしていました。家族が犠牲になるという理由で、国のレベルでは、仕事ができませんでした。

私の母はエコノミストですが、私が学校に入った頃には、彼女は大学を出ていました。

結局は、教育、チャンス、そういう問題だと思えます。時間のバランスをどうとるかということですが、コロンビアでは援助があるから、そう難しくありません。援助が見つけやすく、例えば幼稚園や保育園があり、子どもを預けるところがたくさんあって、誰かに頼んで、「オフィスに行っている間、家に来てもらって、子どもの面倒を見てもらう」というようなことが

できやすいのです。

パートタイムを我われは推奨しております。子どもが小さかったとき、私はパートタイムの仕事をしていました。だから、そんなに子どもとの時間を犠牲にすることはありませんでした。私は彼らの成長を見たくて、パートタイムで働いていた時以外は、子どもと過ごしました。しかし、一日じゅう働かなくてはならない女性は本当に難しく、今では、結婚年齢は上がっています。あるいは独身を選ぶという人も、増えています。今では、「女性が三〇代になっても結婚したくないという人がたくさんいるのは問題だ」とわかつているからなのです。「キャリアをやめるどうか」という選択を迫られて、「独身に決める」という人も増えてきています。ですから、結婚している人の数は減ってきています。

下村館長　それが少子化の原因でもありますね。結婚しないわけですし、結婚しても「子どもを産みたくない。産んでも一人くらいにする。経済的にも大変ですし、援助もない。キャリアも大事にしたい」と、女性たちの望むことは、たくさんあります。

「妻と母になるというだけ」の昔の女性の生き方と違って、今ではたくさんの方の選択肢が出来てきて、上手にバランスを取るといえるのは、たいへん難しい状況です。経済的にも、「子どもを持つ」ということは日本ではなかなか難しいし、家も狭い。その点、福島は、統計では日本の平均にくらべ、仕事と家庭を両立しているパーセンテージが、高いのです。

その理由は、いろいろあるでしょうが、「三世代で同居していて、おばあちゃんが見てくれる」とか、そういうことがあると聞いています。

ニュージーランドは、「仕事と家庭の両立」については、いかがなのでしょう。

「物理的な充足」が求められる中で、働く女性も増加したニュージーランド

ケネディ大使　かなり慎重な問題だと思います。「男性でも女性でも仕事をする可能性がある」とありますが、仕事をするとは昇進したいですね。昇進したいとなると休みたくないでしょう。現在は何といっても資本主義の社会だと思います。私が子どもの頃、家にはラジオしかありませんでした。テレビも洗濯機もありませんでした。それでも、かなり満足できるような生活はできていました。現在の若い人たちは、日本では違うと思いますが、ニュージーランド人は、「精神的に豊かな生活をするより物が欲しい。物があればあるほど、精神的な満足が得られる」と思っています。そのような社会的な理由があり、それは男女の問題だけではなく、もっと大きな社会的な問題ではないかと思っています。

下村館長　ケネディ大使の奥様は、日本人でいらつしやいますね。今日は、奥様はいらつしやらないし、私はご家庭の詳しい状況は存じ上げませんが、奥様も、お仕事はされているのでしょうか。

ケネディ大使　ちょっと健康の問題がありまして……。息子も、もうすぐ試験があるので。

下村館長　お子さまは何人いらつしやいますか。

ケネディ大使　一人です。十二歳です。

下村館長 男のお子さんですか。

ケネディ大使 はい。

下村館長 子どもを育てるときに、日本ではよく、「男の子と女の子では育て方が違う」と言われてきました。私もそうでしたが、女の子は、子供の時には、「あまり頭もよくなくていいし、勉強もなくていいので、なるべくキレイにして、良い夫を見つけてハッピーな結婚をして、男性には口答えしたり反抗したりしないおとなしい女性になることが良い」というように言われてきました。今は、さすがに日本でも変わってきていて、女子の方が威張っていたりして疑問に感じることもあります。皆さん、それぞれ、どのような子育てをされていますか。

カルデナス大使のおさんは、男の子と女の子のお二人ですか。

職業も家庭も充足してほしい——コロンビア

カルデナス大使 三人います。もう一人の女の子は、コロンビアの大学に行っております。

下村館長 お仕事をしながら、三人のお子さんを育てていらっしゃるわけですが、子育てに関してのご自分の方針は、どのようなものでしょうか。

カルデナス大使 ここ（会場）に子どもがいますから、説明は難しいですね。（笑い声）

でも、子どもというのは、「人間が得られる、女性として得られる、最大の宝だ」と思います。教育だって何だって子どものためにやるから、場合によっては仕事を選ばなければならない時

もありますが、仕事が非常に重要な時もあります。常にバランスを考えるとというのが大事だ、と思います。また、場合によっては「子どものほうが重要だ」という時もあるので、その瞬間で決定をしていかなければならないのです。どっちにバランスを取るかというのも、日々決めていくことだと思います。

下村館長 「教育も同じように受けて、プロフェッショナルになつて自分の好きな職業を選んで家庭を持っても、それを続けて欲しい」という気持ちは、お母様としてはお有りですか？

カルデナス大使 日本と似ていると思いますが、同じ教育を受けて、二人とも同じレベルの学校に行つて、大学にも行つて欲しいと思います。キャリアをつくつてほしいし、自立してほしい。特に娘には「経済的に自立してほしい」と思いますね。それは女性にとって大事なことです。それと同時に、ぜひ結婚して家族を持つてほしいと思います。それは、母親として誰でも子どもに対して望むことではないでしょうか。

大学生の娘は二〇歳で、コロンビアにいますが、他の子どもたちは今、東京のインターナショナルスクールに行つており、卒業したら二人とも、ぜひ大学に行つて欲しいと思つております。

女の子でも夢を充足できるオマーン

下村館長 ムスラヒ大使は、いかがですか。

ムスラヒ大使 子どもは三人です。二人が女の子で、一人が男の子です。今日は、長女が来て

おります。英国学校に通っておりまして、二歳下の弟がいます。あと、八歳の女の子がいます。この子は特別なニーズが必要な子ですが、日本の学校に行っておりまして。

コロンビアの大使が言われたことに全く同意見ですが、外交官の子どもというのは、大変です。しょっちゅう外国に行かなければならないということで、国から国へと渡り歩いて、せっかく友達ができても別れなくてはならないので、本当に辛いことだと思います。大人になったら、そういう経験をしたということが、世界の理解につながってほしいと思います。「世界の各地に友達がいる」というふうにしてほしいと思います。各国に行かなければならないということとは、「罰ではなくギフトだ」と、考えてほしいと思います。それが、彼らの地平線を広げることになると思います。

子ども一人ひとりが、それぞれ望みを持っています。長女は、「デザインストアをニューヨークに開きたい」と言っております。オマーンのファッションですね。ですから、それは家庭の中でも力づけるようにしています。その長女も、どのようなコースを取るかというのを決めなくてはいけない時にきています。私はそれが何であっても、激励するようにしています。「何を選べ」というような、影響力を行使するつもりはありません。とにかく自分で選んで、そして大学に行つて、自分で何かを見つけて欲しいと思います。

下村館長　なるほど、国が違つても、本当に一緒だな、と思います。

アメリカン・スクールの〈男女共学〉で発奮

下村館長 ケネディ大使は、どのようにお子さまを育てていらっしゃいますか。奥様が日本人でいらっしゃいますので、お子さまは日本語と英語の両方が話せるのでしょうか。家庭内では英語をお使いなのでしょうか。

ケネディ大使 議題によりますね。

下村館長 議題によるとは。

ケネディ大使 ケンカの時は、いつも英語です。息子は、初め、ニュージーランドの小学校にはいって、トルコに引っ越しすることになって、トルコでは、日本人学校に通いました。五歳から八歳まで。

下村館長 では、日本語もお上手ですよね。

ケネディ大使 会話は全然問題ないですが、漢字を読むのが難しいですね。

トルコからニュージーランドに帰国し、ニュージーランドの小学校に戻りましたが、「英語ができない」という問題があつて、本当に可哀想でした。ニュージーランドからオーストラリアに行つて、友達ができた直後に日本に来て、外交官の子どもたちは大変な面もあると思います。

でも、良い面もあります。彼は日本人であり、ニュージーランド人でもあるので、今回は日本に住めて本当に嬉しいと思います。

下村館長 今はバイリンガルですね。

ケネディ大使 はい。

下村館長 インターナショナルスクールに通っていらつしやるのでしょうか。

ケネディ大使 アメリカン・スクールです。アメリカの学校ですが、生徒たちの半分はアメリカ人ではなく、三割は日本人です。日本語も英語も使っています。そのアメリカン・スクールは、男性も女性もいますが、これは、子どもにとつて初めての経験です。その前は、ずっと男子校だったので、まあいろいろな圧力があると思います。男子校なら、勉強しすぎて批判されることもあります。アメリカン・スクールに入つて彼が驚いたのは、「女生徒たちが、非常に勉強している」ということです。彼も、頑張つて負けなようにと勉強するようになりましたので、いいことだと思っています。

下村館長 お話をお伺いしていると、「お国に関係なく、親の心というのは、みんな一緒だな」と思いました。

あまり時間がありませんが、それぞれ大使として日本に駐在されていて、公式な大使としてのお仕事もありでしょうが、その中で旅行し、日本人の友人や知り合いを観察して、自分の国と日本との違いや、日本の女性や日本の家庭、そういうものについて、何かお感じになったことや、日本に来て驚いたことなど、おありですか。

よく「日本の女性は引つ込み思案だ」とか言われます。日本の経済力は相当高いのですが、それに比べて日本の女性の地位は低いですね。実際、国連の統計上でも低いのです。日本の男性は、「女性は強い」と、皆、言いますが、女性で外に出て、政治、経済、経営、教育、行政、そういうところの決定権のあるところに参画している女性は、少ないのです。

働いている女性はたくさんいますが、「上のポストは男性で、男性が決めたことを実行する手足として女性が働いている」というケースが多くて、重要な決定に、女性が参画する度合いが少ない。「法律を作るとか、会社の経営に参加するとか、教育の方針の決定に参加するとか、もっと決定権のあるところに女性の意見を反映して社会を運営していくほうが、女性にとっても、男性にとっても、よりハッピーは社会になる」ということを前提に、こういうセンターをやっていますが、そのあたりは、どのように観察していращやるか、お聞きしたいのですが。

「女性の〈長〉が少ない日本」に驚く

ムスラヒ大使 着任してからまだ一年数か月ですので……。

下村館長 印象でもよいので……。

ムスラヒ大使 ある意味では限られた印象になりますが、いろいろな会社や企業の方がた、団体の方がたや大学の方にお会いし、いろいろな県にも伺ったことがあります。ところが女性の役員クラスの人には、会ったことがないのです。政府のレベルでも、例えば外務省なんかでも、他の省庁でも、上の方のレベルに女性がいたというのは記憶にありません。それには少し驚きました。「日本は先進国で、女性も、ものすごく高いところにいるだろう」と思っていました。オマーンの場合には数字があるわけではないですけど、民間セクターはわかりませんが、公共部門では局長レベル以上の一二％は女性です。それでも低いと思っています。公務員の三〇％

は女性ですから、少なくとも五〇％にはなくてはと思っています。人口の四九％は女性で、ほぼ半分なのです。だから、半分は女性でなければならぬと思います。

もう一つは、少子化というのが問題だろうなと思いました。「どうして少子化が起こるのか」と思っていました。「どうして日本人は結婚したくないのか。結婚したとしても子どもを産みたくないのはどうしてなのか」と考えました。それは経済的な理由なのか、それとも将来が怖いからなのか。私はまだ答えを見つけれませんし、これを探しています。

オマーンでは、現在だいたい一族につき子どもが五人います。政府のプログラムでは、できるだけ子どもを少なくしようとしています。女性にも「子どもの数は少なくしましょう」と説得しています。それから、「一人ひとりの子どもの間隔をあげよう」ということも、言っております。政府は、「少なくとも、二人目の子供を産むまでは三、四年は待ちなさい」と、言っています。

下村館長　そういう意味では、コロンビアもオマーンも、羨ましい国ですね。カルデナス大使の目からは、いかがですか。

コロンビアと似ている日本の女性の地位

カルデナス大使　私は二〇〇七年の一月に着任しましたので二年目です。着任以来、日本の生活をずっと楽しんで来ています。日本は本当に素晴らしい国です。いろいろな方にお会いしま

したし、日本人の友人もたくさんできました。

私の印象では、「ある意味ではずいぶんコロンビアと似ているな」と思いました。たとえば家族という点ですが、「女性は家族の中で影響力が強い」というところですね。しかも重要な役割を果たして、子どもの教育に関しては重要な役割を担っている。家族を大切に思う。そういったことを女性が担っているのは、似ています。コロンビアでも、女性は強いです。重要な役を担って、家族のことを決めています。日本では「伝統を守る」ということですね。オマーンの大使も言っていました、「日本はハイテクでありながら、伝統もある」と。そういう組み合わせが、本当に素晴らしいと思います。非常に進んでいる技術もあるのに、強い伝統もありますので、この伝統をなくさないでいただきたいと思います。過去と未来を一秒の間に飛んでいってしまうというような両方の世界を持っているのは、たいへん素晴らしいことだ、と思います。これが私の印象で、大切なことだな、と思っています。

さて、働く女性についてですが、私も多くの女性に会っています。意思決定の場所にいるような女性にお会いして、意見交換をしたいと思います。日本でも働く女性は沢山いると思うのですが、「一定のレベルになると、そこから上には行けない」ということがあるのです。今では多くの女性が、企業でも中堅レベルまでいますが、「本当に決定力のあるポジションにいくというのは、どうも日本では難しそうだな」ということを感じました。

数が限られていて、オープンスペースがないということですね。能力もあり、きちんと教育

も受けているのに、チャンスが少ないということで、決定力のあるところまで行けないように、「何でそんなに難しいのか」と、不思議に思っています。

ある日、大手の企業の社長に、会社の中でもっとも重要な女性は、どなたですかとお聞きしましたら、その社長さんは「私の妻だ」って言われました。（笑い声）

下村館長 「妻に頭が上がらない」とか「給料は全部渡しているのだから」とか、それとこれとは別の話で、プライベートの話なのです。「男女同権というのは社会的なことを言っている」のに、日本の男性の場合はどういうわけか、ごちゃ混ぜにするのです。アメリカの友人も、「ビジネスパーティーに行くと、ダークスーツを着た男ばかりで、ヤクザの会かと思った」（笑い声）っていうくらい、女性がいなくて、異常な感じを受けるらしいですよ。ジョークじゃないです。そのくらい違うらしいです。

もう時間も少なくなりましたが、ケネディ大使は前から日本語がお上手で、日本との付き合い合いも長いし、奥様も日本人なので、お詳しいと思いますが、いかがですか。

日本の国家公務員の権力の大きさに驚く

ケネディ大使 日本とニュージールランドの違う点は、両国は法治国家だと思えますが、ニュージールランドでは、国民は直接代議士と話す権利を大事にします。問題があれば、直接電話でも手紙でも出します。それに代議士が直接答えられなかったら、次の選挙で落ちる。非常に代議

士に厳しい。厳しいけれど、期待感も大きいです。

日本は、ちよつと違います。代議士はいるけれど、国家公務員もいます。国家公務員が大きな力を持っていると思います。ニュージーランドの国民は、政策に関する条例を代議士や閣僚に出し、閣僚の決定により動きます。日本とは、そこが違うと思います。

もう一つの点は、日本はニュージーランドと違って、歴史が深くて長いですよ。神道も仏教もあるので、親戚の集まりが多いです。そこは、特に日本の強いところではないかと思っています。

下村館長 それは奥さんの親戚などのつきあいが、いろいろと大変だということですね。

ケネディ大使 そうです。でも、社会的にとっても良い点だと思っています。少なくとも毎年、何回か集まりがありますので、心配がありましたら、親戚と話すことができますので。

下村館長 ちゃんと付き合つてらっしゃって、ご立派ですね。

ケネディ大使 ニュージーランドは個人的な生活なので、心配ごとがあれば、心理的プレッシャーを感じ、それが重なると精神的な病気になってしまいます。日本の社会は、その面から見て、非常に良くできていると思います。

下村館長 ありがとうございます。せっかくなので、会場からも質問を募ります。

参加者（日本人） 日本に何を一番してほしいですか。一つだけあげてください。

ムスラヒ大使 「オマーンに来て下さい。そしてオマーン人と友達になって下さい。オマーンを友達にしたら、いろいろなことができますと思います。」これが私の答えです。

カルデナス大使 世界に目を開いて下さい。日本の方がた。そしてもっといろいろな国の文化

などを知って下さい。それが世界平和に繋がる道であり、よりよく理解をするということだと思います。今回の会議は、そういう意味では、いいことだったと思います。

ケネディ大使 ニュージーランドと日本の若者の交流を増やしたいと思います。青少年の交流こそ、将来への鍵を握っていると思います。

下村館長 それぞれの大使に、ここ福島にいらしていただき、素晴らしいスピーチとパネルディスカッションをしていただいたことを、心から感謝いたします。ありがとうございます。

会場の皆様方も、長時間お付き合ひいただいてありがとうございます。皆様のお顔を見ていたら、本当に熱心にイキイキと反応しながら聞いていらつしゃって、とても良い交流をしていただけたと思っています。

各大使もおっしゃいましたし、私も最初に申し上げたように、世界にはたくさん国があり、それぞれ素晴らしいものを持っていて、それぞれが素晴らしいチャーミングな価値・誇りを持っている国が世界を構成しているので、「その違いを私たちは尊重し、その文化・宗教を理解して、お互いが、その違いを楽しみ合う」という関係を作れば、世界は本当に素晴らしい平和な人間集団になれるのではないのでしょうか。

いま地球は本当に狭い。どんどん狭くなっていて、インターネットでは瞬時にコミュニケーションが取れますし、地球は、大切な「人類の家」です。それをみんなで汚さないようにし、みんなで守って、次の世代の人たちが、楽しく平和で暮らせるように、「私たちが今するべきことは何か」ということを、一人ひとりが考えていただきたい。また、日本人はもっと外に目

を向けて欲しいと思います。どうしても日本人は内向きになってしまつて……。内向きになればなるほど、日本の政治は嫌いになり、見れば見るほど情けないから、外を見た方が良いでしょう。(爆笑)

さきほどのお話で、コロンビアの国際婦人デーに、大統領がメッセージを発したと聞きましたが、日本の総理大臣が、日本の女性の地位向上について何かコメントしているのを見たことがありますね。多分、念頭にはないのではないかと思います。とにかく私たちが日本の国を良くしていくためには、いろんな国から学ぶこともあり、自分を客観的に見ることができ、インターナショナルな交流・お付き合いを、個人レベル・団体レベル・国レベルで、どんどん発展させるべきだと思います。

今日ここにおいでの皆様も、何か小さな一歩でもいいから、自分たちが出来る国際的なアクションを起こしていただいて、福島県をもっと良くしていただきたいと思います。「福島県を良くすることは日本を良くすることの第一歩になる」と思います。

皆さん、今日は本当にありがとうございました。

シンポジウム

山川菊栄の現代的意義

—いま女性が働くこととフェミニズム—



11月3日(水・休) 13:15 ~ 16:45
(開場 13:00)

会場：**東京ウィメンズプラザ・ホール**

参加費：1,000 円



山川菊栄(1890～1980年)は、近代日本におけるフェミニズムや女性労働を語る上で、欠かすことのできない重要な人物です。

生誕120年・没後30年に当たる今年、山川菊栄の「婦人解放」に向けての思想と運動の軌跡をあらためて学び、山川菊栄の現代的意義を再検討するために、記念事業を実施します。

- 開会のことば 井上 輝子(山川菊栄記念会代表・和光大学教授)
- ビデオ「山川菊栄の思想と活動を受け継ぐ」(仮題)DVD版上映
- スピーチ：赤松 良子(日本ユニセフ協会会長)「山川菊栄生誕120年記念事業に寄せて」

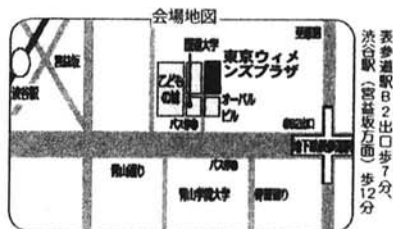
パネリスト

司会：加納実紀代(敬和学園特任教授)

- 水田 珠枝(名古屋経済大学名誉教授) 「フェミニズム史における山川菊栄」
- 竹中恵美子(大阪市立大学名誉教授) 「女性労働研究の歴史と現代の課題」
- 酒井 和子(均等待遇アクション21) 「女性労働の現場から」

● 後援 ●

女性と仕事の未来館
かながわ女性センター
津田塾大学
東海ジェンダー研究所



主催と問合せ先：**山川菊栄記念会**

tel&fax:0466-26-6135 携帯tel:090-2165-4038

神奈川県藤沢市片瀬360-10 B-307 E-mail:y.kikue@shonanfujisawa.com



叫び

堀場 清子

二〇〇九年も終わりに近い 師走の朝
新聞を拡げて
一葉の写真に釘付けとなった

赤い上着の学生ら
バスの屋根にぎっしりと立ち
こぶしを高く突き揚げて
声の限りに叫んでいる
叫んでいる

「国際腐敗防止の日」の九日



インドネシアの首都 ジャカルタで

学生ら デモを組み

政府のスキャンダルを批判した

先頭のひとり 黒シャツの男

長い竹竿に旗を括り

大きく振り回して叫んでいる

叫んでいる

かつての日

日本の学生も このようであつたのだが……

怒るべきを怒らぬ社会の 病理

携帯に溺れる 個

陰湿ないじめはびこり

人間の絆は

ひたすらに希薄化のエッジを滑落する



二〇〇九年の自殺者三万二千七百五十三人
変死者を精査すれば

十万人を超えるともいう

故郷の地縁・家族の血縁・仕事の社縁

それら〈縁〉を失った無縁死も約三万二千人

氏名不詳のまま火葬される

鉄道線路では、人身事故、頻発し

人が殺されても意に介せず

殺人者らはうそぶく

「誰でもよかった」と

歩行者天国にトラックで突っ込み

二分間で七人を殺し 十人に傷を負わせた

あの秋葉原通り魔事件においてさえも

基地をめぐって激化する名護市議選と県知事選 浦島悦子

名護市議選をめぐる攻防

私たち名護市民は、いま、九月十二日投開票の名護市議選に向けた激しいつばぜり合いの真っただ中に置かれている。

「基地問題という、不名誉な日本一」（稲嶺進市長）を返上したいという名護市民の願いとはうらはらに、日米両政府は、ストーカールのようにあくまでも辺野古移設に固執し、市民・県民の頭越しに「V字案」だの「I字案」だの、飛行経路が取り沙汰されている。

そんな中で、今年二月の就任以来、「海にも陸にも基地は造らせ

ない」という公約を貫き、基地建設のための環境現況調査を拒否している稲嶺市長を支え、基地に頼らないまちづくりをめざす与党側と、少数与党にして市長を孤立させ「リコール」をも視野に入れた巻き返しを図る野党側との攻防は、日毎に激しさを増し、野党側には民主党政権のなりふり構わぬテコ入れが明らかだ（多額の官房機密費が使われているのではないかと噂されている）。

知事の二枚舌と民主党の裏切り。在職時に「V字形沿岸案」で自民党政権と合意した前市長・島袋吉和氏のもとに結集する、名護市議

選立候補予定者の激励会が七月二三日、名護市内で行なわれ、十五人の予定者（公明党を含む）をはじめ、地元経済界を牛耳る重鎮たちが顔を揃えた。参議院選挙で「県内移設反対」を唱えて当選した自民党の島尻安伊子議員、「辺野古移設は困難」と語っている仲井真県知事も同席し、基地容認派と言われる各候補者への支持と応援を約束。彼らの唱える「反対」や「困難」が口先だけであることを自ら証明した。

八月四日には、稲嶺進後援会の主催で、同市長を支持する十八人の立候補予定者の激励会が行な

われた。挨拶した市長は、県知事の二枚舌や民主党政権の裏切りを、鋭く批判し、市長選における公約の実現、市政の安定した運営のために十八人全員の当選を強く訴えた。

八月十八日付の「沖縄タイムス」

紙は、十七日夜、前原誠司沖縄担当大臣が東京都内のホテルで、島

袋前市長や辺野古移設に積極的な辺野古区長、名護漁協組合長らと

会い、移設問題だけでなく名護市

議選、県知事選などについて意見

交換したことを報道した。その隣

に並んだ記事は、前原大臣が同様

の時間帯と場所です仲井真知事と非

公式会談を持ったことも伝えている。

名護市長や市民を愚弄するこの

ような動きは、市民・県民の怒り

を掻き立ててはおかない。沖縄

から見る限り、「民主党は自民党よりさらにあくどい」としか言いようがない。

県民の口から「沖縄差別」という言葉が頻繁に語られるようになった現実を、政府はどう考えているのだろうか……。

沖縄の未来をかけた選挙

二七人の定数に対し、現在までに三七人が立候補を表明。市制四〇周年を迎えた名護市の歴史に特筆すべき激戦となっている。とり

わけ基地建設予定地に最も近い東海岸に私の住む久志地域では、地域出身の四人の候補者中、三人までが基地容認派という実態がある。

久志地域は稲嶺市長の出身地であり、そこで市長を支える候補者が

落選するようなことがあってはならないと、私たちは、久志地域唯一の市長派である東恩納琢磨さん（現職）の、「なんととしても譲れない必勝」を期して日夜奮闘中だ。

東恩納さんは、私たち「ヘリ基地いらない二見以北十区の会」の結成（一九九七年十月）以来のメンバーであり、基地ではなくジュゴン保護区の創設と、豊かな自然を活かした地域おこしを牽引する若手リーダーでもある。

名護市議選でどちらが過半数を制するか。そして、十一月の県知事選で「県内移設ノー」の民意を体现する知事を誕生させられるかどうか――。この秋の二つの選挙に、沖縄、ひいては日本の未来がかかっている。

（22・9・1）

市長派が圧勝

九月十二日は名護市民にとって記念すべき勝利の日となった。

「反市長派優勢、市長派苦戦」という大方の予想を、うれしくも裏切って、市長派が二七議席中、十六議席の安定多数を獲得したのだ。私たちが応援した東恩納琢磨さんは、前回を三〇〇票以上上回る得票で上位当選を果たした。

一九九七年の市民投票、今年一月の市長選に続いて、三たび示された「基地ノー」の民意は、どんな圧力にも利益誘導にも揺るがない名護市民の良識を際立たせている。反市長派の采配を振るった比嘉鉄也 元市長（九七年市民投票の結果を裏切って基地を受け入れ、

辞任後も「陰の市長」として名護市を裏から牛耳ってきた）は、「全員当選させる」と豪語していたが、「トップ当選」をめざした（島袋前市長時代の）元副市長（久志地域）は三位で落選。優勢と伝えられていた元自民党衆議院議員・嘉数知賢氏の長男も三三位で落選するなど、当選は十五人中九人。公明党二人を加えても、野党は十一人だ。辺野古移設に固執する民主党の推薦候補は、二人とも落選した。

九月二九日に開会した新生名護市議會は、早速「基地反対決議」の準備に入った。名護市議選の勝利を十一月の県知事選に繋げようと、市民・県民の大きなうねりが起こりつつある。（22・9・30）
（へり基地いらない二見以北十区の会 共同代表）

各地の情報をお知らせください

あなたのお住まいの地方で、いま問題になっていること、始まった運動など、地域の情報をお知らせください。
1行15字。行数は、何行でも、かまいません。

あごら編集部

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-9-4

TEL.03-3354-3941 FAX. 03-3354-9014

E-mail. XLV 05467@nifty.com

資料を読みながら

今年の夏は猛暑だ。プランターに植物を植えていると、水遣りが欠かせない。しかし、夕立を神頼みにして、二泊三日の旅行に出かけた。留守番は件の猫に「帰ってきたら、お刺身」と頼んだ。「ふん、あんたたち、いつものことでしょ。」と猫は言った。

毎年、八月のお盆すぎ、週末に出かけていく。高原に仲間と集まって過ごす。もう三十何回目だ。夫は数週間前からイメージトレーニングに余念がない。私も考える。食事に何をだそうか……。

数日、仲間と過ごし、高原から帰ってくる。暑い。家の駐車場に

車を入れる。音を聴きつけて、家の中から、約束の履行を迫る猫の催促の音が聞こえてくる。ちゃんとした。ほつとする。植物はダメージが大きい。特に青ジンは悲惨だ。コスモスも首をたれている。家に入る前に池の水をかけた。

鍵を開け、夫が猫の留守番をねぎらっている。猫は、粗相もせず、元氣もいい。私は、郵便受けに、柏崎市の厚い封筒を見つけた。一センチはある。

「うわっ」

平成二二年度第二回柏崎市男女共同参画審議会の資料であった。八月二二日の四時である。

押見操子

男女共同参画審議会委員

みなさんの前で恥ずかしいのだが、実は、去年から柏崎市男女共同参画審議会の委員である。一昨年、所属している「かしわざき男女共同参画推進市民会議」で男女共同参画審議委員の公募がある話を聞いて、やってみようかと思い、四百字の作文を書いた。「平成十三年の柏崎市男女共同参画推進プランの策定に夫婦で関わった経験もあることだし、どう運営されているか関心がある」と書いた。見事当選したのか、なりたいたと、手を上げる人がいなかったのか、平

成二一年四月から、委員になった。

新潟県柏崎市男女共同参画推進条例は平成十八年十二月二二日にできた。(施行は平成十九年四月一日である。)この条例の第三章に、男女共同参画審議会について定めがある。この審議会は「男女共同参画を総合的かつ効果的に推進する上で必要な事項を審議するため」に置かれたものであり、「市長の諮問に応じ、調査及び審議する」ものである。「特に、男女共同参画推進に影響がある施策の策定について、施策への苦情について、市長の施策について、意見を言える立場である」と私は認識している。

会議は夜六時半から行われ、大體二時間が予定されている。任期は二年なので、平成十九年に男女

共同参画審議会が第二期目となる。

どこもそうなのかもしれないが

平成二一年の第一回の会議は六月二五日木曜日だった。実は、市は切羽詰まっていた。平成十一年の基本法を受け策定した平成十三年からの基本計画は、平成十八年に改訂され、平成二二年には新基本計画を作らなければならないはずなのである。ところが、普通に考えれば、ほぼ一年遅れていたのだ。予算が付かなかったのか、中越沖地震の影響かは定かでない。担当者は「審議委員の皆さんの協力を得て、何とか期限に間に合わせよう」と思っていたであろうに、最初の議題「平成二十年の推進状況の報告と平成二一年度の計画」

から、私を含め、数人の委員が質問を連発してしまった。

審議会の資料は事前に配付される。それに目を通して、審議する。資料は当日も持参するのである。資料は膨大で、読みこなしは、なかなか困難な場合も多い。行政事務そのままを出してある部分も多く、前年度の報告の書きようで、そのまま記載されている部分がある。

しかし、委員が大人の態度や落としどころを心得た対応をとれば、もめることもない。ところが、ここで、質問をしてしまった。その後、他の委員も発言した。市の担当者は「こんちきしょう」と思っていただろう。以前の基本計画策定経験もあり、かなり、文句を言って

しまった。公募の委員は審議会に慣れていないはずだ。公募の委員に良くわかる資料をつくり、説明をするべきではないか。でもそれが大変なのはわかってはいるのだが。

審議会は平成二一年度に、あと二回あった。基本計画の原案が出されたが難航し、ともかく、アンケートをとることに決まり、項目等が審議された。

いよいよ審議は佳境に

平成二二年度第一回は六月二九日火曜日だった。この日は平成二一年度の報告と調査と平成二二年度の計画が主な審議であった。昨年の轍は踏まない。順調に審議は進む。

しかし男女共同参画基本計画は

柏崎市役所職員で作るワーキンググループが、たたき台を作成することになった。「ひとりでも市民を入れる必要がある」という意見は通らなかった。このような経緯での資料の配付である。

会議で発言する時に完全に「自分が正しい」と思って発言しているわけではない。知らないこともあるし、思い違いもある。十三人も委員がいるのだから、その立場で、知っていること知らないことがある。興味関心の方向も違う。実りある話し合いをしなければならぬ。

そして、四月二二日から五月末まで、柏崎市において男女の意識と実態調査（アンケート）が行われた。調査は回収率が四〇パーセ

ントを超えていて、柏崎の人たちは本当にすごいと思う。

男女共同参画基本計画

現行の基本計画は、「かしわぎき男女共同参画プラン改訂版」という。夫が改訂委員会の委員だったので、何回も何回も出かけていたのは知っている。できたプランは、「素人っぽい」と感じるもので、非常に具体的だった。「男女共同参画のイメージがわからない」と散々言われていたので、「このように具体的であれば、具現化しやすい」と納得した。

男女共同参画は、どの分野にも関係しているので、例えば、柏崎市のさまざまな施策が縦系であれば、横系としてまちづくりに資す

る、そんなイメージを私は持っている。今までなかった領域を加味して施策を行うのは、並大抵でない。しかし、「具体的にこれ」と書いてあれば手をつけやすい。五つの基本目標と十八の重点項目、八一の施策の方向をもっていたのだ。

例えば、基本目標一、「男女平等と人権に配慮したまちづくり」重点項目五、は、三つの施策の方向があるのだが、施策の方向①男女共同参画の視点を取り入れた防災、災害復興体制の確立、施策の方向②災害時の女性専門相談員による相談窓口の開設、施策の方向③連携期間や市民グループからの経験情報の収集、蓄積というのがある。

中越沖地震は平成十九年である

から、①は、かなり威力を発揮した。しかし、②はまだである。③は実施しているであろうに、要領よくまとめられていない。

平成二年の会議で、私のような委員に、「やってないじゃないですか。」と言われてしまうのである。

「やっていない」と言われると、行政は、どうしても反応してしまう。しかし、そういう意図で作られたものだったのだ。

男女共同参画がわかっている担当者であれば、この重点目標を実施するためには、まず③の部分を充実させる必要があり、「そのためにこれこれをやっていたので予算が足りなくなりました」とか、実施できなかった理由を挙げてほしかった。担当者になったが、こ

んな施策の方向を初めて見て、報告書を書く段になって、どうしようもないので、正直に「実施せず」と書いたというのなら、弁解の余地が無い。しかし、こういう担当者は考えにくい。

二二年の会議には、これは、かなり修正されて、担当者の評価が書かれるようになった。自己評価なので、男女共同参画のアンテナの高い人は評価が低い。その担当者を知っている必要があることになってしまった。

会田柏崎市長は、柏崎市男女共同参画条例を策定しているときも、市の総合基本計画を策定する時も「プロセスが重要だ」と常々言っている。

具体的な部分が多い男女共同参画基本計画である。まず、現行基本計画が時代に合わなくなっているかどうかを考えてみるべきではないか。たしかに、具体的なもので時代に合わなくなっているものもある。これについては、国の男女共同参画会議の第三次答申が、役に立つ。

また、柏崎男女共同参画条例が出来た。条例との整合性は、ちゃんと気をつけなければならない。

現行基本計画の中に、「県の権限があること、国の権限があること」が入っている。私は、それでもいいと思う。

「市の権限ではないので、評価できない。市の予算を使っているわけではないので市の仕事でない」

という考え方もある。しかし、「その項目を、市も、ちゃんと興味深く見守っている」というメッセージがあってもいい。「県、国は、ちゃんとやっている」という報告でもいい。僭越だろうか。国は県より偉く、県は市より偉いのだろうか。

今回の審議会議の資料

では、資料は、どんなものか。

まず、資料一、「男女の意識と生活実態調査」結果。A4版の中質紙（資料は全て中質紙）両面刷りでびったり二百ページまでページがふつてある。自由記述欄も網羅されている。いたる所に「総評」という、自分でコメントを書く場所がある。気が抜けない。なかなか

か今度の担当者は「しっかりしている」と言おうか、「委員に応分の仕事をさせてやるぞと決意している」と言おうか。

次に資料二、「男女の意識と生活実態調査」の概要（二二年八月二十日現在）。調査概要と担当者のまとめでA4両面、十二ページ。客観的な記述に徹している。

資料三、「男女共同参画プラン 現行計画の検証と新計画（案）の計画目標等との比較」。A3両面一枚。新男女共同参画基本計画の案らしい。

資料四、「第二章 計画の内容」。これは新男女共同参画基本計画の案にそつての小冊子を作る時の第二章で、もう作りこんであるもの。資料三の説明となっている。

「もうここまで作って各課に根回ししているのだから、反対するな」と言わんばかりで不愉快だが、手直しもそんなに難しくないご時世だ。意見は言わしていただくつもりだ。

そのほかに、会議次第、出席者名簿、柏崎男女共同参画基本計画策定の概要、送り状である。送り状の中に「先の会議で配付した『第三次男女共同参画基本計画策定に向けて（中間報告）』を持ってきて欲しい」と書いてある。しかし、第三次男女共同参画基本計画策定に当たっての基本的な考え方（答申）は七月二三日に出されているので、これもチェックしなければならぬ。

「うう……」

次の会議は、八月三十日月曜日十八時半から。その日は朝から人間ドックで新潟。読むしかない。二六日夜は柏崎フォーラムの件で、柏崎男女共同参画推進市民会議の運営委員会があるし。読むっきゃない。

資料を読みながら

資料を読みながら、本当にいろいろなことが浮かんだ。アンケート調査は前回平成十六年のものとの対比が出てくる。社会が動いてきていると実感できる。動きは、安定してはいない。価値観の違いとして捕えなければいけないことなのか、男女共同参画ということな誤解してのことなのか。

「広報活動は、どの程度必要な

のか。」

「男の本質」って、「女の本質」って。

今は不況で、「もっと、ほかにやるべきことがあるのでは」という意見。

アンケートの項目一つ一つに、ああだこうだと話し合いがしたい。しかし、多分、審議会では時間がないであろう。このように資料を読んで学習することが将来につながると思いたい。

案について、検討する。市民の意見として、行政の方向からではなく検討する。世界の方向、国の方向、県の方向、市がみんなの税金を使って平等に。理想論、現実。自分の経験。周りの人の声。他の人の意見も良く聞かなければなら

ない。良い方向へ持つていくことを心しなければならぬ。しかし、審議会は、そうたびたび開催されるわけではない。時間が足りない。資料を読む。ああ、私はまだ、開発途上だ。こんな資料が読めるのは幸せだ。

もう一人の自分との出会い

資料を読みながら、男女共同参画と出会ったところのことを思い出した。

平成七年から平成九年まで新潟産業大学を会場に、〈ウーマン・カレッジ・イン 柏崎〉があった。主催は新潟県教育委員会。共催に新潟産業大学と柏崎市教育委員会。このとき私は四十歳。フルタイムで勤め始めた年だ。そこで、私は「女

性学」「男女共同参画」と出会った。

はじめ、私はこのウーマン・カレッジの企画を、「女性をしつかりした労働人口に加えるために女性の自覚や能力開発を狙って実施するプログラムだ」と思っていた。しかし、そうではなかった。女性講師は、みなキラキラしていた。そのひとりが倉元正子さん（あごら会員）だ。

多くの仲間と出会った。女性と男性が真に認め合い、共に生きるということを考えるきっかけになった。男性講師も素敵だった。櫛田ふきさんの話をするはずだったのに、戦争の話をして泣いてしまった川村克己先生。実行委員会も男女共同参画を実践している方が多かった。

もう十五年も昔のことになる。

柏崎市男女共同参画審議委員長は二期目の関根富紀子さんである。このウーマンカレッジの実行委員会で会った。

職場に出勤する時も、資料を持つていく。昼休みに読むためだ。

忙しい朝の時間、今日は、鞆に資料を入れそこなった。しまった！忘れた！私はあせって鍵を開ける階段を上る。すると、部屋の中から「びっ」という音がした。

障子を開けると、猫がクローラーのリモコンを踏んで、クローラーをつけていた。思わず言った。

「いつもやっているんじゃないよね。偶然だよ。」

猫は、平然と階段を降りていった。
（2010年8月27日）

状況に「返し風」を

第68号

2010年9月30日 発行



けーし風

新沖縄フォーラム



〔特集〕

元海兵隊員の言葉から考える

◆ハ講演V高梨 公利 ◆大城 ちなみ

◆ハインタビューV高里 鈴代

◆村田 光司

◆ハインタビューV東恩納 琢磨

名護市民の選択「市議選挙編」

◆シマだより ◆佐喜真美術館だより ◆表紙の言葉

◆北の風・南の風 ◆沖縄・いま

◆波紋（高良勉） ◆城岳から（池宮城紀夫）

◆沖縄環境ネットワークだより ◆沖縄この三カ月

◆読者の集い（関西／関東） ◆編集後記

■定期購読の申込みは、はがきがFAXでお願いします。こちらから郵便振替用紙をお送りしますので、ご希望の方は、年間4号分（2000円）または2年間8号分（4000円）をご送金下さい。＊バック・ナンバーあり。
発行所 〒900-1115 那覇市久茂地3-29-41 401号 ☎&FAX (098) 861-1101 E-mail: keshikaji@mbr.nifty.com

ふえみん

f e m i n

ジェンダーの視点で社会を眺めとく新聞です。

〒150-0001
東京都渋谷区神宮前
3-31-18

☎ 03-3402-3244
03-3402-3238

FAX 03-3401-3453

E-Mail femin@jca.apc.org

URL <http://www.jca.apc.org/femin/>

見本紙
ご請求下さい!

大阪支局
〒530-0041
大阪市北区天神町
3-10-8-404
&FAX 06-6356-0778

★タブロイド判8ページ／毎月5・15・25日発行
購読料：年間9,000円・半年4,500円（送料込み）

自分で
考える人と
一緒に
考えたい。



子どもたちの太平洋戦争



岡田 黎子 著

『子どもたちの太平洋戦争』

地球村平和の交響曲

完成をねがって

岡田 黎子 著

B4判変形36頁 1500円

「一旦緩急あれば義勇公に奉じ……」明治天皇が教育の基本方針として示した教育勅語は、

戦前・戦中の学校教育では、事あるたびに校長や教師が奉読し、生徒は、毎朝、奉唱した。

その徹底した軍国主義教育を受け、「戦争をするための人間」として育てられた筆者は、太平洋戦争末期の中学二、三年時代に、瀬戸内海の太久野島毒ガス製造工場へ学徒動員され、中学三年の夏、敗戦。被爆直後の広

島の救援活動で、広島の惨状、恐怖と衝撃が、生涯、消えることのない心の傷となった。

この本は、その体験を忘れない筆者が、六十余年前の記憶をたどり、戦時色一色だった当時の状況を描いた作品集である。いま、六十代の人さえ戦争を

知らない日本の中で、自衛隊の基地も米軍基地も全国各地に置かれ、それが〈国民の安全〉を守るかのように誤認されている。恐ろしい戦争の記憶を通じて、

「太平洋戦争の実態を正確に認識し、今に通じる問題として認識することこそ戦争を防止する」と確信する筆者が、六十余年前の記憶を掘り起こして、「子どもたちの眼に映った戦争」の記録として描いたこの記録集。

発行の理由を、筆者は、二点に要約する。

一つは、「戦争」が、「人間の本能だ」ということ。

二つ目は、「人間の弱さ」。「戦争を食い止めるべき人民は大勢に流されやすい。」

特に子どもたちの心は、どのような洗脳されること。そのなかで、国家や人びとの間違いに、声をあげることなく、やすやすと洗脳され、目先の保身に終始

することだと、指摘する。

このような人間の本能を認識して、常に問題意識をもって、現状を見据え、朝鮮戦争中の原



出征兵士（1937年・昭和12年）
小学校2年生 西大田村

爆投下を食い止めたストックホルム・アピールのように、世界中の平和主義者と連帯して戦争を食い止めよう、との強い切望



呉空襲（1945年・昭和20年7月1日）Sさん 女学校3年生

に立つて自費出版されたのが、この本である。できるかぎり多くの方に読んで頂きたい。（斎）
（定価一五〇〇円。申込先・あこら）



被爆者救護（1945年・昭和20年8月）
女学校3年生

〈連載〉母を語る 7

リブを生きた明治の女書生 5

斎藤 千代

手渡されたのは、一匹の虫でした。白い、見たこともない虫。ぐにやりとした感触。

——それがカイコ（蚕）だと知ったのは、ずっと後のことです。二三男さん^{ふたみ}にしてみれば、「人間にこの上なく役に立つものを育てているのだ」と、得意だったのでしょう。

階段から転げ落ちても、子どものこと。私は、すり傷ひとつなかったのですが、心配したのは、二三男さんのお母さんでした。お母さんは、私の家までお詫びに見え、母に挨拶。「その挨拶ぶりが見事だった」と、母は、たちまち彼女の大ファンになり、「小学校を出ただけです」という彼女の自己紹介に、ますます惚れこみ、「人間は学歴で評価すべきじゃない」という自説に、さらに確信を深めたようでした。

その頃、母が熱中したのは、鶏（にわとり）を飼うことでした。

どんなことでも、始めたら最後、どんどん深入りする母は、一羽のレグホンが、いつのまにか数羽になり、数十羽になり、白色レグホン以外の、コーチンだの、烏骨鶏^{くわこけい}だのと、にわたりの

種類も、次から次へと増えていきました。

その卵を朝の鶏舎で拾って母に届けるのは私の仕事でしたが、産み落とされた卵の温かさは、今でも記憶にあります。そして、鶏舎が、三棟になり、五棟になり、と、次つぎに増えていったことも。

掌にとれば、ほのと温しや寒卵

俳句にしたのは、それから何十年もたってからでしたが……。

しかし、母の夢は、無惨に破れました。

一羽のレグホンが、〈にわとりコレラ〉になったと思うと、あつというまに広がり、ある日、学校から帰ると、何棟も立ち並んでいた鶏舎は、すべてがらんどろになり、消毒薬の強い臭いが、あたりに満ち満ちていました。

卵を抱いた母鶏に、私の古いシャツを着せて膝に抱き、たいせつに、たいせつに、雛の孵るのを待っていた母の姿は、何十年もたった今でも、眼の中に、あざやかによみがえります。

十五、六年も経ったころ、母に聞いてみたことがあります。

「お母さまは、どうしてあんなに鶏を飼うのが好きだったの？」
母はポツンと答えました。

「お百姓の家に育ったからでしょうね。」
と。

母は、生まれるとすぐ、農家にもらわれていったのだそうです。

もちろん子どもの時は、「もらわれっ子だった」などとは知らなかったそうです。そして、自分が、なぜ、生まれてすぐ、よその家の養女になった理由も……。

もらわれた農家は、農家と言っても大地主で、「田植えだ、など」というと、赤い手つ甲に赤い菅笠をつけて、まねごとのような田植えをしたのが、とても楽しかった」と、子ども時代の話をする時は、ほんとうに幸せそうでした。

養家の父からも母からも兄からも、目の中に入れても痛くないほど大切にされた母は、その当時、小学校を卒業してから進学する学校は、田舎にはなかったもので、小学校を卒業すると、学校の先生のすすめる師範学校に進学したのだそうです。

師範学校に進学すると、勉強が好きだった母は、もっと上の学校に進学したくなったそうですが、その頃、女性が進学できる、「女学校や師範学校の上の学校」というと、東京と奈良の女子高等師範学校（通称「女高師」）だけ。しかし超難関で、各県から〇・六人くらいしか合格できなかったもので、母が、逡巡していると、先生は、毎日、つきつきりで試験のための特別指導をしてくださったそうです。

そのおかげで、県下でただ一人、東京女高師（通称「お茶の水」）の文科に進学。

当時は、東京のお茶の水に、校舎も寄宿舎もあった由で、級友は、全員、各県の一番か二番

という才女ばかり。教師も超有名な先生が揃っておられ、授業のレベルも高く、「どの授業も、おもしろくておもしろくて、終業のベルが鳴るのが残念だった」と、晩年、よく当時を偲んでいました。

この学校に入って、何より嬉しかったのは、すぐれた級友に恵まれたこと。今の鎌倉女子大（当時は鎌倉女学校）の校長になられた方や、東京の有名な高等女学校の教師として、多くの生徒さんに慕われた原しげのさんが大親友で、晩年、お互いが九十を越えてからも、姉妹のように親しくしていました。

その方がたは、母以上に、人物も学業もすぐれた方で、母が、ふたこと目には「女高師」「女高師」と、母校を誇りに思っていたのが、納得できました。

東京の学校に入ってみると、学問だけでなく、ダンスやピアノの演奏も必修だった由。

しかし、母は、ピアノは苦手で、先生に、「私は手が小さいので上手に弾けません」と言うのと、先生は、母の手を取って、ご自身の手と重ね合わせ、『手は、私のほうが小さいでしょう』と言われた。生涯で、あれほど恥ずかしい思いをしたことはなかった」と、思い出話をしていました。ダンスやピアノまでが必修だったのは、当時の鹿鳴館で、女高師の学生が、各国の大使や、来賓客の相手をさせられることもあったからだそうで、そういう話も、もっと具体的に聞いておきたかったと、今ごろになって後悔しています。

（続く）

会と催し



「欧米のフェミニズムと山川菊栄」

東海ジェンダー研究所と、山川菊栄記念会の共催による表題の講演会が、六月二〇日、名古屋都市センターでありました。講師の一人は、WW会員である、水田珠枝さん。事務局から、奥田、坂、岡田の三人が、宮地弁護士と牛久保弁護士の講演会のPRをかねて、参加してきました。六〇人くらいの会場に、七〇人以上が入るといふ大入り満員でした。

各地から、研究者、大学教授クラスの方が多数参加されているようでした。よって、講演内容も、日頃お勉強を積んでいない我われ、いえ、失礼！私には、かなり高尚で、理解が追いつかない面はありましたが、それでもじつと耳を傾けていると、わかつてくるころはあり、興味をもって聞き入ることができました。

はるか四〇年の昔、高校の教科書にも「山川菊栄」の名はあったように記憶するが、少なくとも短大での「近代女性史」の授業には間違いなく登場していたはずの「山川菊栄」は、社会主義者との印象しなく、これまで私の興味、関心を引くことはなかった。もつとも、関心をもったとしても、本格的な思想家である「山川菊栄」を読みこなすことは、当時はもちろん現在でも、むずかしいと思われるのだが。この日初めて、さわりだけでも「山川菊栄」の原文に触れた、と思う。

講演者の吉田啓子（名古屋経済大学）さんと、水田珠枝さんの解説により、社会主義者だけではない、日本のフェミニズムの源流が「山川菊栄」にあることを知り、大いに驚くとともに、たいへん嬉しくもあった。

山川菊栄記念会のパンフレットに掲載されている、

若き日の山川菊栄の写真は、知的な顔と端正でりりしい着物の着こなしを伝えている。この姿が、私はいっぺんに気に入った。また、歴史上の人物とばかり思っていた「山川菊栄」が、私と同時代を二九年間も生きていたことにも大変驚いた。戦後、初代労働省婦人少年局長に就任した頃には、私はもう生まれていたのかも。

菊栄逝去の二九歳前後、私は体調を崩し、新聞を読むどころではなかったことを、思い出す。

さて、一九七〇年代に田中美津さんの「便所からの解放」という強烈な切り込みで登場したウーマンリブ運動に共感した私は、青春期を、この運動とともに過ごす。山川菊栄が、社会主義者であった山川均と結婚するに際し、先方の母親が出した条件が、①実家の姓を使わないこと ②籍を入れることであつたそう。

が、七〇年代のウーマンリブ運動も、大正期の社会主義運動に負けず劣らず、社会からも、既成の運

動の輪からも疎外されていたから、当事者は肩身の狭さを感じたし、家族なども、娘がウーマンリブであるなどとは、うかつには口にできない状況であつた、と思う。ところがこの日、フェミニズム以前のウーマンリブ運動が主張した論点を、明治二三年生まれの山川菊栄がきつちりと提示していることを知り、あのリブであつた頃の疎外感を吹き飛ばすような爽快感を味わつたのである。

『産む、産まぬはおんなの自由』は、「障害者差別である」との批判にさらされながらも譲れない、リブ運動の主張であつた。山川菊栄は、これを「産児制限と社会主義」の中で、「……いかなる社会においても、男女を通じて、親となるべきや否やを決定する権利並びに親となる時期を選択する権利は、失われるはずがありません。――中略――ことに、妊娠、出産、保育の期間を通じて、婦人の負担は男子のそれをはるかに凌いでいる以上、この点について特に婦人の意志が尊重せられねばならぬこと……」と書いている。

家父長制度を色濃く残した結婚制度に反発し、事実婚を選択する人が多かったリブ運動であるが、これを山川は「結婚は、ブルジョア社会の存続する限り、大多數の男女、特に女子にとつては個性の墓となる恐れがある。恋人同士が、いったん夫と呼び妻と呼ばれるや、もはや二人の「人」はなくなつて、その代わりに一人が残るのみであり、その一人とは通例男子である……」と書いている。

その他、上記のように時代を反映した言い回しで、現代人が読むには苦痛かも、と思われる表現であるが、夫婦別姓の必要を言い、婚外子差別の不当性を言い、ワークライフバランスの必要を言い、家庭における性別役割分担の欺瞞性を言い、家庭労働の社会化を言い、といった具合に、現代に通じる課題を、すでにほとんど網羅している。その先見性には驚くばかりである。

最後に、吉田啓子さんのまとめとして「現代フェミニズムの功績の一つは、性抑圧構造としての『近

代家族』の発見にあるが、山川は『近代家族』の揺籃期に、いち早くその性抑圧構造に注目し、これを批判していた」と、解説。

また、「山川の描きだす将来社会の男女関係では、経済的に自立した、対等平等な関係の構築が語られるが、そこでは異性愛主義が自明視されており、それ以外の関係は視野に入っていない。その点から見れば、山川は『近代家族』思想を批判しながら、それを完全に乗り越えたとは言い切れないのである」と、その限界の指摘をもされている。

質問への応答の中で、水田珠枝さんは「日本では思想の継承がなく、断絶しているがため、ウーマンリブ運動が登場した際には、世間は、これまでになく新しい主張と受け止めたのだらう」と言われ、「今後、さらなる山川の社会主義フェミニズムの遺産の再検討が必要である」と呼びかけておられた。

山川菊栄が見直されるとき、ウーマンリブ運動もまた、その思想の実践者、体现者としての役割を見

直されてもいい、と思うほどに、二人の学者の語る山川菊栄とリブ運動の主張は、ぴつたりと重なりあって響いたことを報告したい。

〔ワーキングウーマン〕 146号より転載)

(岡田夫佐子)

リブ温泉合宿2010

往年の〈リブ〉たちが、一年に一回集まって勉強会を開いたり、旧交を暖めたりする〈リブ温泉合宿〉も、十三回目。今年は、七月十六・十七日に、熱海市の網代温泉「平鶴」で開催されました。

幹事も含めて二十人が参加。皆様のご協力と、日ごろの心がけ(?)のおかげで、天気もよく、楽しく終えることができました。

十六日の夕食では、一番に申込みをされて、そのあとに亡くなられた北村三津子さんに献杯をしました。一泊二日ではありますが、北村さんを偲ぶ涙あり、ドジョウすくい笑いあり、情報交換や話し合

いも、短い時間ながら内容の濃いものになった、と思います。

合宿で得たエネルギーをこれからの日常に生かして、また来年も元氣でお会いできることを願って、散会しました。

来年参加なさりたい方は、お早めに、〈あごろ〉の斎藤までご連絡ください。

(斎藤千代)

各地の女性問題関係集会の

状況をお知らせください。

長さも、文体も、ご自由に。

1行23字。何行でもかまいません。

送付先 あごろ編集部

〒160-0022

東京都新宿区新宿1-9-4・1004

TEL 03-3354-3941

FAX 03-3354-9014

E-mail: XLV05467@nifty.com

本が育てる学びの力。

福島県いわき市に〈絵本の城〉

絵本と子どもたちを愛した幼稚園長と、世界的建築家、安藤忠雄さんがつくりあげた〈絵本の城〉が、福島県いわき市の、太平洋を見おろす丘の上にある。「絵本美術館〈まどとそのと、そのまたむこう〉」。

米国の作家モリス・センダックの、同名の絵本から名づけられた。

市内の幼稚園長、巻レイさんが、安藤さんに熱烈な手紙を書いて頼みこんだのが発端。安藤さんは、ためらいなく引き受けた。

オープンは5年前。高さ9メートルの書架に、1500冊の絵本が表紙を前に向けて展示されている。コンクリートの壁と木の床のぬくもりに満ちた館

内は、迷路のような階段が続いている。

〈想像力の貧困な子ども〉は、実に頼りない。「こうすれば、どうなるか」という、〈先を見越す力〉を持たないから、自分も傷つくし、他人も傷つける。〈豊かな想像力が豊かな人生をつくる〉と言う巻さん。収蔵する絵本は1万3千冊。

想像力を養うために、巻さんは絵本の読み聞かせを30年以上続けてきた。三つの幼稚園から600人の園児が、月に一、二度は、ここで過ごす。

巻さんは昨年5月、敗血症で亡くなった、75歳だった。「子どもたちに光あふれる希望の世界を魅せようとされた巻さん。美しい人生だったと思います」と、安藤さん。

志を継いだのは、母の読み聞かせで育った長女、美佳砂さん（48）。「ええ、母のように読み聞かせを続けていきます」。

ラオスの子どもに「読書の種まき」

発展途上国の子どもたちに本を贈る世界的ボランティア組織IBBY(国際児童図書評議会)が、2008年度IBBY国際児童図書普及賞に選んだのが、東京に事務局のある、NPO法人「ラオスの子ども」。古くから伝わる民話「狐兎と小さいお化け」などを再版。日本の絵本作家たちによるセミナーを開き、絵本や紙芝居をつくったうえ、絵入りの国語辞書も編集。157種類71万冊を発行。ラオスの3千の学校に贈る一方、図書室を準備し、本の補修の方法なども教えている。

08年7月に訪れたラオスの主都ビエンチャンから車で2時間の村では、20代の女性が読み聞かせをしていた。小学生の時、本を読んだ嬉しさが忘れられず、「本の楽しさを伝えたいと、先生になった」と。野口朝夫事務局長は、「読書の楽しさを、さらに打ち出したい」と、今後、冒険小説や恋愛小説など、娯楽性に富んだ本の翻訳も考えている。

「オヤジの読み聞かせ」コンクール

09年11月、福岡市内のギャラリーで、「読み聞かせオヤジバトル」を開催。子育て中のお父さん6人が「福岡を本の町に」を合言葉に、絵本の読み聞かせを展開した。順位は決めず、拍手で、それぞれの健闘をたたえあった。06年に始まった「BOOKFUKUOKA」の一つ。「普通の読み聞かせではおもしろくない」と、男性に絞ったのがミソ。出場者全員が、「精いっぱいやった。子どもが喜んでくれたのが嬉しい」と、声をはずませた。

年商1億円の「花嫁キムチ」

1991年、山形県の旧朝日村に嫁いで来た韓国人の花嫁第一号、金梅永さん。手づくりの「うめちゃんキムチ」が、庄内観光物産館で大人気。2005年に会社を設立、今では、従業員25人。東京の高級スーパーにも納め、全国から注文。年商1億円に

迫る。「へもうけ第一」じゃない。子どもを産んで育て、家族を大切に、社会に貢献したい」と金さん。

好感度トップは、オバマ夫人

CNNが、オバマ大統領夫妻と主要閣僚7人の人気調査をしたところ、トップはミシェル・オバマ大統領夫人。2位がクリントン国務長官と、いずれも女性。オバマ大統領自身は3位に。

今年の「次の10年」は……

百年前の1910年代、最大の出来事は、列強諸国のほとんどが参戦した第一次大戦。

日本は14年にドイツに宣戦布告。これをきっかけに中国大陸で利権を拡大。大戦は18年に終わったが、戦争を防止できなかった反省から20年に国際連盟が発足。現在の国連（国際連合）を軸とする紛争解決手法の原型となったが、日本は、1910年に韓国

を併合、植民地支配を開始。中国には1915年に21か条要求を出し、関係は急速に悪化。第二次大戦の敗戦を経て反省。現在は、米国と並ぶ経済・外交関係の要めとなった。

第一次大戦で欧州諸国が疲弊。産業インフラが荒廃したため、日本の輸出は伸び、国内の産業基盤が充実。10年には茨城県に鉾山用機器の修理工場ができ、後に日立製作所となる。18年には、後のパナソニックの前身、松下電気器具製作所が誕生。17年創業の三菱造船神戸造船所は、国内初の量産車、三菱A型の生産を開始。13年に、米国のフォードが、一部工場の流れ作業にベルトコンベヤーを導入。大量生産の道を開いたが、これは大気汚染や地球温暖化の発生を招く。また、大戦の余波は、コメの高騰となり、各地に米騒動が起き、内閣が崩壊。初の本格的政党内閣、原敬政権が誕生。18年のスペイン風邪は、インフルエンザの走り。多くの死者を出し、日本人のマスク愛用の始まりとなる。

一方、出生率は89年に1・57に落ち、「1・57シ

ヨック」と言われたが、08年には、1・37に。

10年には「子ども手当」が始まるが、保育所の待機児童問題は深刻で、出産に踏み切れない母親は、少なくない。

また10年に実用化が予測されたりニアモーターカーは、JR東海が、25年に首都圏と中京圏を結びニア新幹線の実用化を目指す。また、同じく10年に実用化を期待された太陽光発電も、家庭用は、90年代後半から各メーカーの販促が加速中。

一方、文科省は、01年の第7回技術予測調査で、「在宅勤務社員を一千人以上抱え、会社組織の運営は、すべてインターネットで行い、本社ビルを持たない年商一千億円規模の企業が10年で誕生する」と予測。NTT東日本などが在宅勤務制度を拡充しているが〈本社のない大企業〉の登場は、まだ先のようだ。

一方、社会的補償制度の持続性には疑問符がついた。年金や医療にかかる経費は2010年度で約27兆円。一般歳出の半分に。今後は高齢化で毎年1兆

円ずつ膨らむ。

現行の社会保障制度を継続するには、15年度で約8兆円、25年度には約20兆円の追加財源が必要。消費税8%の引き上げが必要となる。

GDP（国内総生産）に対する国と地方の債務残高比率は10年度末で181%と、米国の2倍。財政状態は先進国中、突出して悪い。社会保障費の膨張などで、一段の財政悪化が予測される。

この状況下で、社会補償制度を立て直すには、非効率や無駄をなくす努力だけでは無理。保険料の引き上げや増税で財源を確保すると共に、経済活性化で税収を増やす工夫も必要に。

鳩山首相は消費税率引き上げの4年間凍結を宣言したが、不安は高まるばかり。高齢者には、給付の抑制を迫り、現役世代には負担増を迫る社会保障制度改革と併せて「増税」などの「痛み」の議論も、待ったなしの状況にある。

出生数、再び減少

2009年に日本で生まれた赤ちゃんは、08年より2万2千人少ない106万9千人で、2年ぶりに減少に転じることが、厚労省が2010年1月1日付で公表した人口動態統計の年間推計でわかった。

一方、死亡数は9年連続で増加の見通しで、出生数から死亡数を引いた人口は、マイナス7万5千人。3年連続の自然減となる。

ただし死因のトップである「がん」は、前年より約千人増の3万4千人になる見通しで、全体の約3割を占める。

次に多い心疾患（心筋梗塞など）は、約3千人減少して、約17万9千人。2位の脳卒中など脳血管疾患は約6千人減少して約12万1千人に。1980年には、脳血管疾患が16万2317人で最多。がんは、16万1764人で2位だったが、翌年以降29年連続で日本人の死因のトップとなる見通し。

一方、日本の人口は、05年に初めて死亡数が出生数を上回り、自然減となった。06年は8224人の微増となったが、07年に1万8516人減となり、

08年は減少幅が拡大した。

離婚が増加、婚姻は減少

人口動態統計の年間推計によると、2009年の離婚件数は、前年より2千組増で25万3千組。7年ぶりに増加する可能性がある。婚姻件数は前年より1万2千組減って、71万4千組にとどまる見込み。離婚増と婚姻減で、政府の援助が必要な母子・父子世帯の増加や、少子化のさらなる加速が見込まれる。離婚は1990年を底に12年連続で増加。02年に戦後最多の28万9836組に達した後、6年連続で減少。08年は25万1136組になったが、09年は微増の見通し。

人口千人あたりの離婚率は、08年は1・99で10年ぶりに2を割ったが、09年は2・01になる見込み。厚労省は、「結婚適齢期の世代の人口が減っているため、全体としては減少傾向が続くだろう」と説明。また20～30代の過去5年間の結婚数を、就業形態

別に比べると、「正規社員24・0%に対し、非正規社員は12・1%」と半分。雇用情勢の悪化が、婚姻件数減に影響した可能性もある。

新成人、史上最少の127万人に

総務省の推計によると、2010年1月1日で20歳の新成人は、前年よりも6万人少ない127万人。過去最少を更新。130万人を割ったのは、推計調査を始めた1968年以降、初めて。

一方、今年の干支の寅年生まれは1034万人で、総人口に占める割合は8・1%。年男505万人、年女530万人。年代別では第一次ベビーブーム直後の50年生まれ（今年60歳）が201万人と最も多く、次が第二次ベビーブームの74年生まれで195万人。

「成長へ」——眠る力を引き出す
ニッポン復活の10年は

再生する米国、改革する欧州、飛躍するアジアの中で、衰退の瀬戸際に立つニッポン。

伸び続けるのは平均寿命だが、世界がうらやむ長寿社会は、社会保障負担にあえぐ高齢化社会か。

登録する360人すべてが60歳以上、最高齢79歳という人材派遣会社「高齢社」が、東京・秋葉原にある。仕事は、ガス検針や設備工事、マンシヨン管理など50を超える。企業の手が足りない時、定年後のシニアを派遣する。

「元気なお年寄りが多い。（毎日が日曜日の人）の力を生かしたい」という社長、上田研二さん（71）は、東京ガスのOB。売上げは5年で8・5倍、3億円に伸びた。米国ボストン大学の研究チームも視察に来た。

日本の労働力人口は6600万人。10年後には500万人減る。非労働力は4500万人。高齢者や主婦で15歳以上人口の4割を占める。働かない人が増えれば、所得も消費も減る。縮み志向にはまり込む。

65歳以上の4人に3人は、日常生活に影響する病気は、ない。しかし働いているのは、2割。長寿国には長寿国ならではの働く仕組みがあるはず。

丸紅が08年に設立した丸紅紙バルブエンジニアリングは、日本では唯一、製紙プラントの建設を支援する専門家集団だ。日本の製紙工場で生産ラインを守ってきた技術者OBが主体。常勤33人中、60歳以上が23人。最高齢は72歳。アジアで次々動き出す製紙プラントが活躍の舞台だ。「使うチップは針葉樹か広葉樹か。工場の温度や湿度は？」など、日本で培った技が「アジアで生きる武器」になる。

日本の高齢化は、規模でも速度でも人類初の経験。「高齢者に焦点をあてた社会制度とビジネスモデルを確立し、アジアが追従するような戦略を描く時」と、東大政策ビジョン研究センター長の森田朗さん(58)は語る。少子化対策の外にある高齢者の知恵と力を埋もれさせず、働きがいのある戦力にする仕組みが要る。

仕事をつくり、働き手を生かし、価値を生むのは

企業であり、民力である。企業社会が豊かにならないければ雇用は増えず、税収も増えず、政策のための財源もできない。

政府が昨年末にまとめた「470万人の雇用創出で、若者や高齢者、女性の就業率を高める」シナリオは、「企業を、どうエンジンにするか」が、完全に欠けている。これでは実現不能だろう。

「人口が減り続ける日本だが、経済成長率は平均1%そこそこ。60歳以上の労働参加率が1割上がる」と、成長率を1・6%押し上げる」とは、経済同友会の試算。女性の労働参加が増えれば、さらに上昇する。

30代の働く女性は、フランス8割、日本は6割。「子どもを産んでも働きたい女性」は、年々増加。受け皿は企業だ。

南アルプスを望む長野県下條村。高齢化率3割の過疎の村が出生率でトップクラスに。日本の人口は20年に4%減る見込みだが、下條村は逆に4%増える見通し。

村では、役場の職員60人を35人に減員。

業務を民間に委ね、財政を黒字にした。保育園は値下げ。子育て世帯には住宅を安く貸す。65歳以上の1200人は、農道整備などの戦力に。子育てを終えた女性は「地域で子育て」にノウハウを生かす。「人という資源は、放っておくと眠ってしまう。老若男女が目標を決め、連帯意識で実行すれば、観光資源がなくても、地域は再建できる。」と。

若者が増え、住民が増えた過疎の村に、電子部品メーカーが工場を。60人分の雇用が生まれた。

高齢化が社会にのしかかるのは、コストとみられがちだが、長寿型経済のモデルをいち早く確立できれば、世界が欲しがるノウハウになる。世界最速で少子化と高齢化が進む日本は、先駆者として最も優位な位置にいる。

10年後、今23%の65歳以上の人口は29%に。中国も3割に。世界最大の経済国に育つ東アジアは、巨大な〈高齢社会圏〉になるだろう。

築地の国立がんセンターには、アジアの患者が相

次ぐ。小さいがんを発見する検診技術は日本が最先端。

外国人を受け入れる病院は、東京で十数か所。検診ツアーなどの問い合わせは、中国などからも絶えない。「収入源を増やせば医療全体の充実にお金がまわる」との声も。

ストップ少子化！ 男たちよ変われ！

少子化を克服するカギは男性にある。「妻に偏りがちな子育て」を引き受けることだ。

男性の意識変化の兆しもある。20〜30代を中心に、子育てに積極的な「イクメン」と、家事をいとわない「カジ（家事）メン」が台頭しつつある。

日本は、夫の家事・育児時間で、欧米諸国に大きく水をあけられている。「男女共同参画白書2009年版」によると、6歳未満の子がいる夫の1日の家事時間は約1時間、そのうち育児の時間は33分。出生率上昇中のフランスでは、2時間30分と40分。

米国は、3時間13分と1時間5分。フルタイム男子労働者の1日の労働時間は8時間3分、日本は8時間14分で大差ないのだが。

改正育児・介護休業法では、男性の育休を促す措置が盛り込まれた。両親が共に育休を取得する場合は、取得期限を1歳2か月まで延長。妻の出産後8週内に、夫が育休を取得した場合は、いったん職場復帰してから再び取得できるようになった。

男性の育休取得を後押しする企業も現れた。旭化成グループでは、06年、「1歳未満の子がいれば、5日間有給で、複数回取得できる育休制度」を導入したところ、男性の取得者は毎年200人超に。「育休中の男性の収入源をカバーする仕組みを設ければ、取得率はさらに高まる」と見られている。少子化対策の道は広い。

一方、国や自治体の認可保育園などに入れない待機児童数は、09年4月で2万5384人。前年同期に比べ、3割増。08年秋以降の不況で、働く妻が増えたためだ。

潜在的待機児童は、全国で80～100万人と言われる。政府は17年度までに保育所の児童数を100万人増やす「新待機児童ゼロ作戦」を掲げているが、実現は未知数。

〈老いの家族〉Ⅱ富山の〈かっぱ庵〉

富山市の、認知症が進んだ高齢者の終の住み家（かっぱ庵）は、古い民家を改造して07年に定員8人で開所。67～94歳の7人が住み、3人が通う。障害者も子どもと一緒に暮らし、高齢者が一緒に風呂に入ったり、大家族のように面倒をみる。自宅でも病院でもなく、ここで亡くなる人も増え、地域とのつながりも出来た。

伴侶得て心やすらぐ

高齢者同士の結婚が増えている。結婚相談所には65歳以上900人が登録。登録者の20%を占める。

「以前は恥ずかしそうに訪れる高齢者が多かったが、今は堂々と相談する人が多い。見合い後、半月で結婚を決意した人も。」「一人で寂しく死にたくはない」「息子の家族と暮らしていても自分の部屋に入れば独りぼっち。今は孤独を感じない」と。遺産相続をめぐるトラブルは世間には多いが、ここには、そんなトラブルも、ない。

子ども手当——消費押し上げは限定的

「供給側に偏っていた政策の発想を改めて、需要をしつかり創出する」をうたい文句に、需要刺激策の一つとして今年6月から、合計2兆3千億円を支給する「子ども手当」。(中学生まで一人当たり月1万3千円≡2011年度からは2万6千円を予定)を出す政策。内閣府の津村啓介政務官(経済財政担当)は、「子育て世帯は消費性向が高い。需要の底上げには最も効果的」と、来年度は1兆円程度の需要創出効果があると指摘。民間研究機関も同様に、国内総生

産を0・2%前後押し上げると見るが、この手当は使途の制限がなく、何に使うかは消費者次第。賃金の下落や失業率が高まれば、効果は大幅に弱まる。「雇用者報酬」は、09年は1年前より9兆円程度少なくなったようだ。2兆3千億円では穴埋めできず、デフレで、賃下げ圧力も強い。「日本経済全体では、需要の押し上げ効果は限定的」との声も多い。経済の先行き不安が解消できなければ、子ども手当の大半は貯蓄に回りかねず、少子化対策はどこまで有効か。OECD加盟国でみると、子育て費用の現金給付はGDP比で平均1・2%。日本はその4分の1、0・3%しかなかったが、子ども手当が満額支給されればOECDなみになる。しかし、日本は保育所が不足するなど、現物給付は0・46%。出産後仕事をやめなければならず、出産をためらう女性も多い。少子化対策には働く女性の育児負担を減らす総合的な取り組みが欠かせない。

黒澤明が育てた女性たち

20世紀を代表する日本の映画監督・黒澤明の生誕百年。国内外で改めてその業績をたたえる動きが始まっている。

黒澤明は、映画制作に関わる人びとを育てたが、その一人、記録係、野上照代さん(82)は、今も黒澤明を讃え続ける。

「羅生門」の美は、光と影の織りなすコントラスト。鏡に自然光を反射させ、狙いどおりの光と影を作り出した。

薄暗い森で人物の表情を際立たせたことが、誰が正しいことを言ってるかわからない世界観を深め、ベネチア国際映画祭のグランプリに輝き、日本映画が世界で認められる道をつけた。「生きる」(52年)では、「僕はリアリストじゃない。理想主義だから」と語った。常に「撮りたい絵」のイメージを持ち、狙った雲が空に浮かぶまで何日も待ち続け、妥協を許さず、しばしば「徹底したリアリスト」と評されたが、作風までそうとらえられるのを嫌った。

『蜘蛛巣城』(57年)の終盤、三船演じる城主が部

下の将兵に無数の矢を射られる場面では、大学の弓道部員が先端の尖った本物の矢を放った。手元が狂ったら……という怖さがあった。「三船さんと監督の信頼関係があったから出来た作品です」と野上さん。「記憶の蓄積。それを再生する力があつた」と。名医を描いた『赤ひげ』は、山本周五郎の原作を、半ばからドストエフスキーの「虐げられた人々」の世界観で構築し、『蜘蛛巣城』では能の表現を演出に取り入れ、『影武者』の前半、泥だらけの武者が城に駆け込むシーンは、ドイツ映画『会議は踊る』を模倣。

御殿場市内の小高い丘に残る黒澤監督の別荘に案内した野上さんは、言った。「監督は富士山を愛し、朝夕眺めることを日課にしていた。晩年も、ずっと言っていましたね。『映画つてものが、いまだにわからないんだ』と」。

黒澤監督の長女、和子さん(56)は、33歳で黒澤組の衣裳部入り。「父の娘というだけで入ってきたと思われないよう、恥も外聞もなく頑張って働いた

ら、何か月かして、「しつかりやつてるじゃないか」と認めてもらい、黒澤組の懐に入ることができた。父と仕事をしたのは『夢』『8月の狂詩曲』『まあだだよ』の3本。お互いに、「もっと早く一緒に仕事をしていればよかった」という思いがあったと思う、と追憶する。「我が家には仏壇がない。家には、父と母、祖父母と、ジョン・フォードの写真があり、私がやる映画の脚本や子どもたちが描いた絵、成績表を並べていた。形にこだわらぬ父に似合うと思っ

ミセス選手 続々活躍

既婚の日本女子代表選手の数は2000年のシドニー五輪で2ケタに。

柔道では96年のアトランタ五輪52キロ級銅メダルの檜崎教子が銀メダル。04年のアテネ五輪で谷亮子が48キロ級を制し、大会2連覇。

08年の北京五輪では、陸上の5千メートル、1万

メートルに赤羽有紀子、ビーチバレーではシドニー五輪4位の佐伯美香が、結婚・出産を経て参加。バンクーバー五輪にはスピードスケートの岡崎朋美が短距離2種目で代表に。

第51回毎日芸術賞に二女性

音楽クラシック部門に、ピアニストの遠山慶子さん(75)。名匠コルトーに認められて留学、63年、パリでデビュー。独奏だけでなく、多くの名演奏家との室内楽の協演で高い評価を。

ミュージカルでは、『COCO(ココ)』と、『雨の夏、三十人のジュリエットが還ってきた』で、万人に愛され万人を楽しませる稀有の女優として大輪の花を開いた鳳蘭さん(63)に。

パパの子育て時代。パパが「パパ料理」、
「読み聞かせ」を

「おいしい」という家族の笑顔を見るために作り始め、05年、パパ料理のレシピを紹介するブログ「ビストロパパ」をスタート、千品以上の料理を紹介。

昨春、株式会社ビストロパパを誕生させた神奈川県川崎市の滝村雅春さん(39)は語る。「仕事が忙しくて週末しか子どもと遊べなくても、子どもと一緒に料理すれば、自然にコミュニケーション。妻にも喜ばれ、食育にもなる」「限られた予算(食材費)と期間(調理時間)でクライアント(家族)の満足度を引き出せるか」と考えれば、会社の仕事と変わらない。「料理力は仕事力です」と満面の笑顔。

長女が生後数か月の時から読み聞かせをしてきた「絵本ナビ」の社長、金柿秀幸さん(41)は言う。お父さんは子どもとのコミュニケーションが無器用ですが、ノウハウも知識もほとんど必要ない絵本の読み聞かせは、最もハードルが低い。大切なのは、お父さん自身が絵本を楽しむことです。「お母さんに言われたから」ではなく、「お父さんが面白いと

思う本」を読んであげる。お父さんからオーラが出てくると、子どもは、それだけでうれしくなる。

子育ては「期間限定」です。子どもと、どれだけ楽しい時間を共有したかが、その後の親子関係になる。疲れて帰って来ても、子どもと過ごすとりフレスシユでき、明日への活力がわく」という、秀幸さんのおすすめは、〈怪物・恐竜・おぼけ系〉〈うんち・おしっこ・おなら・あくび〉〈何の役にも立たないと思われるナンセンス系〉〈科学・生物系〉〈社会・哲学系〉など。

「人は、なぜ争うのかなど、社会でもまれているお父さんならではの視点が、きっと子どもの心に残る。」と。

「2か月育児をとる」と父親が宣言

1月1日から、育児に入ったタレント、つるの剛士さん(34)の広言に、思いがけない反響が……。

その多くは芸能界での仕事への影響だった。

しかし誕生の53分後、自らのブログに、生まれたばかりの子を抱き上げた写真を掲載。ベストファーザー賞に輝いて、育休をとる決断を授賞式の壇上で告白。あげていなかった結婚式を〈子連れ婚〉として、親類30人でグアムに渡った。

エッセー集、読み聞かせ絵本も、続々出版。どれも大ヒット。

〈学校〉より〈塾〉に傾く親たち

平成世代が133万人に。身長も体重も、親が子どもだった時期よりも大きい。でも、鬼ごっこ、メロンコなど、外で遊んでいた子どもは消えた。塾・習いごとで大忙し。09年の調査では、学習塾に通う公立学校の児童・生徒は小6でも49・6%。中3では69・7%に。ピアノ・英会話・プールなどの習い事も増えており、学校への信頼は年々低下。

学級崩壊は十数年前から指摘されていたが、今は子育て世代の親の約半数が「教師の『教育する力』

が不十分」と言う。教員採用試験の倍率は大幅に低下する一方のなかで、この数年で1万数千人のベテランが退職する。

「必ず朝食を食べる」子は、中2で81・3%。就寝は、23時～午前0時が最も多く、0時以降も14・9%。

埼玉県内では、ボランティアが地元小学校を支援する「学校応援団」が05年にスタート。09年10月の調査では県内の約81%の小・中校で活動しているが、むしろ「親の意識」が問題視されている。

主婦たちの〈ワン・デイ・シェフ〉が全国に

ささみのオランダ揚げ、エビとプロッコリーのマリネ、レンコンの明太子あえ、お盆からあふれそうなおかずを揃えたランチが800円。三重県四日市のレストラン「こらぼ屋」のシェフは20代～70代の主婦。2001年にスタートしたワンデイシステム・シェフの店は、いま全国21か所に。

飲食店を独力で開くには、多額の資金と面倒な手続が必要だが、1日分の賃料（昼は4000円、夜は1万〜1万8千円）を払えば、あとは食材を自分で用意するだけ。「プロのようなもっけを意識せず、楽しい。そして知らなかった自分や、新たな可能性を発見できる」と、どの店も、店主にも来客にも、大好評。

「家事の基本」講座や書籍が続々

お茶の入れ方、家計簿のつけ方などの講座や書籍が、大ヒット中。「景気の悪化で、洗濯や料理を自分とする人が増えたせいでは」と、お茶の水女子大名誉教授の牧野カツコさん。

人口減少、過去最大に

厚労省が発表した平成21年の人口総統計によると、日本に住む日本人の人口は、過去最大の7万5

千人減の見込み。出生数の大幅減（前年比2万2千人減の106万9千人。過去2番目の低さ）に対し、死亡数は昭和22年の統計開始以来最多の114万4千人となったため。自然減は3年連続で、人口減少は今後さらに拡大する見通し。

夫が倒れ、妻が施設づくりを

岐阜県関市の郊外に、「恵みケアセンター」と、グループホーム「恵みハウス」がオープンする。施設長は、長年、夫を介護してきた原美代子さん（62）。理事長は長男の原智紀さん（32・医師）。

02年、夫が脳梗塞で倒れて以来、生活が一変した。リハビリを続けたくても、夫の症状に改善が見られないと転院を促され、5か所を転々。「ずっと居られる施設がほしい」と、夫が障害者になって降りた保険金に、銀行からの借金を加え、〈介護者〉から〈事業者〉へ転身する。

介護保険制度が導入された2000年からの10年

間で、介護殺人や心中は四百件を超えており、「施設手作り時代」が始まろうとしている。

学習ボランティアの派遣を働きかける 女子大生

慶応大学三年の森山督恵さん(21)は、学習ボランティア団体(3keys)をつくり、児童養護施設の子どもたちに、勉強を教えるだけでなく、「気づき」「希望」を見いだす「きっかけ」をつくる――この三つの「かぎ(key)」に、子どもたちを守り育てる願いを込めて、意欲のあるボランティアを送り込んでいる。

週1回、45分間勉強を教え始めて4か月。「すぐに投げやりになりがちな、心理面に問題のある施設の子どもたちが、心の底から笑えるようになってほしい」と、活動を始めた。「53・4%が虐待を受けた傷を持つ施設の子どもたちの心に、希望の光を……」と。「面会をドタキャンする親が多い施設の子どもた

ち。ボランティアも身勝手にやめれば、「また捨てられた」と傷つく。「今の日本で、自力で、学習ボランティアを確保できる施設は三割以下。志のある学生を集め、派遣するのが自分のできる仕事」と。

酒づくりにも女性が進出

「若者の日本酒離れと言われるが、もともと一升瓶を手にする若者は、いない」と、入社三年目で、酒蔵「文楽」(埼玉県上尾市)の商品開発やデザイン、営業で活躍する一杉真理さん(25)。ものづくりの原点に触れたいと、自ら志願して酒蔵に出入り。温度差の激しい室内作業や力仕事も。

早朝からの仕込みを午前中いっぱいこなし、午後には営業。「消費者の手にとつてもらいやすい商品をと、お酒の質はもとより、容器やデザインにもこだわる。その成功に、酒蔵は、蔵人を除く社員の大半は女性を採用。今後とも女性重用が続く情況に。

埼玉県飯能市の五十嵐酒造でも、女性を蔵人に迎

えている。千葉県出身の吉野暁子さん(26)。東京都内の大学で乳酸菌を勉強。大学四年の十月から二か月間、泊まり込みで仕込みを体験。「やらせてください」と就職。気温5度の部屋で醗(もと)母(ぼ)を育て、今期からは、一層責任の重い麴担当に。朝5時から夕方5時まで一瞬も気がぬけない現場で活躍。帰宅後も、気になると酒造に駆けつける。「女だから」と気をつかわれるのはイヤ。力仕事でも汚れ仕事でも、何でも言ってくれる職場が、とてもうれしい。麴や酒母が、ぶくぶく泡を立てるのが、かわいくてしょうがない。夜は「おやすみ」と声をかけている」と、わが子を見まもる母のような表情。女人禁制だった古典的な職場にも、女性がどしどし活躍するだろう。

「低コスト林業」を推進し、辺境を活性化

寒川歳子さん(60)。和歌山県日高川町、組合員600人の美山村森林組合に1995年入社。2004年、組合長に。

ところが翌春の決算で2400万円の欠損が判明。いきなり、がけつ測に。そこで、まず情報を共有化、人件費を大幅にカット。人が伐採した材木をワイヤに吊して運んでいたのを機械で伐採、搬出用の作業場も作り、放置されがちだった間伐材を市場に持ち込んだ。使い道がないとされていた木の株や先端部分も、町などと共同で、粉状の燃料にした。「林業は、捨てるものがない資源循環型の産業。地域の資源である森林をできるだけ生かすことは、『辺境を元気にする』と、ご自身も、ますます元氣。

テニス四大大会に62回連続出場

4歳からラケットを握り、15歳で世界ジュニア一位に輝いた杉山愛さん(34)。早くから世界に注目された少女は、「世界のトップで最も長い間戦い続けた選手」となった。

一年中、世界各地を転戦するツアー生活は、重圧、疲労、孤独との闘い。それを、励みや楽しみに変え

る力があつた。海外のライバルとも、コート外では友として遊び、語り合う。

「いいトレーニング法がある」と聞けば、すぐ試した。「テニスに完成はない。昨日できなかったことが今日できる。それが何よりの喜び」と。

それでもラケットを置く決意をした。シングルスの世界ランキングが70位台まで落ち、「年間を通じてトップレベルで戦うのは、もう難しい。完全燃焼できた」と。最高世界8位。13年間10〜30位で終えてきたプライドだった。母の美佐子さんも、今回は、とめなかつた。コーチとして共に歩んで9年、「何事も楽しむ精神を身につけ、よくやりきった」と。17年間のプロ生活を祝福。

埼玉県、3人乗り自転車購入に3万円を補助

幼児2人を乗せられる3人乗り自転車は7万円前後、電動アシスト付きだと10万円以上する。埼玉県の交通安全協会など7団体と、県・県警は、「子ども

もの安全のために」と、3万円の助成を決定した。

終わらない国際的危機。

少子・高齢化Ⅱ人口減の克服が急務

一人当たりのGDP（国内総生産）が、2000年にOECD加盟30か国中、2位だった日本は、08年は19位に。中国に抜かれるのは時間の問題だが、人口減、デフレと、前途は険しい。その解決には、

「①中国からベトナムにかけての東アジアに、調和を重視した環境をつくり出す。②日本国内に共同体意識を呼び起こす。③自由な独創性を育成。④巨大な港湾や金融市場の整備。⑤日本企業の収益性を大幅に改善。⑥労働市場の柔軟性をうながす。⑦高齢化を補うために移民を受け入れる。⑧市民に対して新しい知識を公平に授ける。⑨未来のテクノロジーを、さらに習得。⑩地政学的思考を念入りに構築し、必要な同盟関係を堅持する」が必須条件。なかでも重要なのは少子化高齢化対策だ。

最低10年以上の人口政策に立って、住宅・保育施設・産休制度の充実を実現したフランスは、出生率を上げることに成功した。学歴にはこだわらず、若者が主導権を発揮できる場を与える。

金融危機は、地球規模に広がった市場に「法の支配」がなく、銀行を規制する国際的ルールもなかったからだ。危機はまだ続いている。①銀行は不良債権を抱え続けている。②民間の負債は公的な負債に置き換えただけ。③失業は続き、むしろ深刻になっている。④「市場の規制の欠如」という根本的な問題は先送りされており、リーマン・ショック後の金融危機は終わったわけではなく、日本の底力と知恵が試されている。

女子中学生はラジオが好き

低迷していたラジオの聴取率が、10代を中心に上昇中。

「高校生、大学生は1・7～1・9%程度だが、

女子中学生はラジオ好き。好きな音楽やタレントを追いかけるうちラジオに行き着くようだが、固定的なファンではなく模索中」とは、電通など調査機関の意見。

伸び続ける日本人の寿命

——しかしその対策は

高齢化率（65歳以上の人口を示す）が、日本は西欧諸国に比べて急激に上昇している。推計では2050年に国民の4割近くが高齢者になる見通し。

日本人の寿命は年々伸び続け、2008年には男が79歳、女が86歳に。総人口のうち65歳以上の割合を示す高齢化率は22・1%に。「国民の4・5人に1人が高齢者」という状態。

高齢化率の上昇に伴って、年金や医療・介護などの支出が増加するため、社会保障給付費も増え続けており、07年度に91兆円を超え、その約7割を高齢者関係が占めた。

国連によると、日本は40年後の2050年に高齢化率が37・8%に達する。これは「国民の2・6人に一人が高齢者であること」を意味している。1950年の高齢化率は4・9%に過ぎなかったことを考えると、異例の急激な上昇率と言える。長寿社会は望ましい社会ではあるが、高齢化社会を支えるシステムが十分でないまま高齢化率が上昇を続けると、社会保障制度は立ちゆかなくなる。そのため、社会の支え手を確保する少子化対策の必要性が叫ばれながら、十分な対策が打たれていない。07年の日本の社会保障給費のうち、少子化対策・育児支援などに充当されているのは、わずか3・9%。GDP比では0・8%にすぎず、英・仏・スウェーデンなどが、どこも3%を超えているのに対し、著しく過小である。

西欧諸国は、いずれも大規模な少子化対策を実施し、高齢化率の上昇は1980年半ば以降、ゆるやかになっている。中でも女性の就業率が高いスウェーデンは、保育環境の整備が進み、育児休業や時間短縮勤務制度も充実している。フランスは、子ども

が二人以上いる家庭には、所得にかわりなく手当を支給し、税負担も子どもが多いほど軽減される。

政府は2010年度から中学生以下に「子ども手当」を支給する施策を打ち出したが、増え続ける交通事故死や自殺など、問題の根は深く、対策の貧困が問われている。

へこたれない女性

日本一へたな歌手 浜田朝美さん(28)

大みそかの夜9時、東京都内の駅前で、NHKの紅白歌合戦に合わせて歌っている若い女性がいた。

「紅白歌合戦を目ざしていたのですが、かなわなかったので、紅白に出た気分で、歌わせていただきます。」

キラキラに飾った電動車いすに（日本一へたな歌手）の、のほり。メーカーも衣裳もバッチリ。気温4度、足踏ぶみするほどの寒さも、「からだ全体で歌うから寒くない」と、二時間休みなしで10曲を披露した、

浜田朝美さん。

四肢の障害で、5歳のとき「一級障害」の認定。病名はついていないが、800グラムの未熟児で生まれた時の処置の後遺症なのか、今も原因不明。

中学の時に発症した言語障害は、高校時代に悪化。発音に苦勞し、リズムをはずす時も……。しかし「障害できれいに歌えない分、気持ちをごめします」と、詞も曲もつくる。わずかに動く左手人さし指で携帯電話を操作し、長い時間をかけて作詞する。それを知人の作曲家が曲にする。

でも、酔っぱらいに抱きつかれ、追い回されたことも……。「こんなヤツに歌わせるな」と迫られた時は介助者が泣いてしまった。調子が良ければ六時間歌い続けるが、体調が悪くて歌えない日もある。

母は6年前、52歳で胃がんで亡くなった。亡くなる前日、その母と約束した。「お母さんの好きな紅白の舞台に立つ」と。二歳のとき離婚、女手一つで育ててくれた母の口紅を塗って歌った「リング追分」に、母は涙した。

09年9月、自伝と、初のCD『生涯たった一つの母との約束』を発表した。「重度の障害。一人の人間として見てもらえず、邪魔者扱いされた幼い日々の記憶を詰めた、ポップスのような哀感ある」曲調。「障害者「なのに」がんばっている」と思われたくない。「特別扱いしない、されない社会」を、40年も前から訴え続けてきた先達たちの小さな声を伝え続けよう」と、あえてヘタな路上ライブを、2年間続けている。

三百字小説賞を受賞した池井ゆみさん

東京新聞サンデー版の「第五回三百文字小説賞」。4、288作品の最優秀賞に選ばれた、名古屋市の池井ゆみさん(33)。一男一女の母。幼い頃から、よく物語を自作。スイミング・インストラクターとして働きながら五年ほど前から小説やノンフィクションを執筆中。「子育ても、書くことも好き。だから気にならない。今後は長編も書きたい」と、ますます意欲的。

苦しむ人に寄り添う鈴木亮子さん

若年性アルツハイマーの母の介護を15年間続け、その母を、暮れに失った鈴木亮子さん（43）。認知症介護研究・研修大府センター（愛知県大府市）研究員。空っぽになった心のまま、自らの修士論文を読み返した。

認知症介護者の心理過程を追うため、インタビューした女性たちのすがすがしい表情がよみがえった。「後悔はない」「いっぱい勉強させてくれた」母や夫をみつめたすがすがしい表情がよみがえった。

しかし、まだそんな心境には、なれない。でも、愛する家族が家族でなくなっていく苦しみを待つ人に、今なら寄り添うことができる。

母が発症した時は二十代の会社員。「誰かが財布を取った」と言うようになった五十代半ばの母。「認知症」と診断されたとき、「何もかも、終わった」と思った。

退社を決意。そこに失恋が重なった。母を奪って

いく病気が、自分の人生まで壊していく。夜中に外を徘徊する母の症状は急激に悪化。施設介護に踏み切ると、母は「もう会えないのかと思った」と泣いた。自責に苦しみ、34歳で大学の編入試験を。「何がしたいの」という問いに答えた。「本当に苦しかったとき、自分の気持ちを聞いてくれる人はいなかった。だから、その「人」になりたい」と。

臨床心理士の資格を取り、認知症の患者や、その介護者の心をケアする研究者になった。

忘れられないことがある。失恋直後、隣で眠っていた母が夜中に泣き出した。「また認知症か……」と思ったとき、母が声を絞り出した。「亮子がかわいそう……」ハットした。母は、いつまでも母なのだ。脳の一部の機能がこわれても、感情は最後まで残る。論文のために会った女性たちも、母親の認知症を受け入れるきっかけになった、似たような場面を、宝物のように覚えていた。

「認知症の患者やその家族を診る臨床心理士は、ほとんどいない。介護の制度には、カウンセリング

は組み込まれていない。ならば、道を開いて行こう」と。

「心の奥底には、ずっと、いつもの母がいた。そのことを、苦しむ人たちにはっきりと伝えられる自分が、ここにいる。」

ロシア政府、女性人権家らを拘束

12月31日、モスクワの中心部で、サンタクロースに扮して集会の自由を求める抗議集会をロシア政府に対し開こうとした女性人権活動家リユドミラ・アレクセーエワさん(82)らに、機動隊が突入し、市当局に集会の許可を申請していた参加者たちを護送用車両に押し込めた。

アレクセーエワさんは、12月16日、人権活動を讃える欧州議会の「サハロフ賞」を受賞したばかり。欧州議会のプセク議員は、「警察の行為は明らかに行きすぎだ。民主国家では、人びとが政府に抗議する権利がある」と支持を示した。

期待の若手議員に「日本の政治」を問う

山尾志桜里さん。1974年生まれ。東大卒業後、名古屋地検などで検事。愛知七区から国会議員(民主)に。ミュージカル「アニー」の初代主役でも知られる。

「政治家になったのは、検事として多くの犯罪を見て、日常にある問題を、政治の力で変えたいと思ったから。

地元の方と接すると、自分の感覚を取り戻す。政治について意見交換する機会をもっと増やす努力と工夫が必要。

政治とは、国の形や未来生活のルールをつくること。国会が中身のある議論の場でありたいと強く思う。政治家が、もっと議論ができるよう、党派を超えて仕組みを考えていきたい。やっと二大政党制のスタートラインに立った今、事業仕分けのような「制度」にとどまらず、国家としての大きな政策の対立軸を示す必要があり、若い世代はそれをつくる重要

な責任がある。

大学の先輩や同級生が、官僚の中核になっているが、官僚は国民のために働くもの。議員は、党派とか、政治家と官僚とかの壁を破って、有権者一人一人の思いを背負うべきだが、いろんな分野の人をスタッフに雇用したくても、できない。その硬直性も何とかしたい。

「米国のように、大学生が芝生で政治の話をする光景を見たい。あらゆる世代の人が、日常的に政治について話し、それが国政に届き、返ってくる——そんな実感を持てるようにしたい。」

「女装男子」が急増中

東京の街かどでスカートをはいた男を見かけるようになった。世間の抵抗感が減っていることが背景にあるようだ。

東京・秋葉原のメイド喫茶、雲雀亭のメイドは、全員、男性。二年半前、オーナーが経営する別の喫

茶店で女店員が欠員、仕方なく男性が女装して接客、「おもしろい」と評判に。一昨年1月、雲雀亭を、月数回、不定期にオープン。募集には百人以上が応募、15人が選ばれた。

客の6割は男性。「同性だから気楽に話せる」と。165センチ、51キロ、9号の婦人服、胸にパットで働く20代のレイナさん。「恋人は女性。ここで働いていることは知らない。結婚したら、やめる」と。大阪府東大阪市の遊タイム出版は、昨年、女装の方法を教える「オトコの娘のための変身ガイド」を出版。メイクのしかたからカツラの手入れ、ストッキングのはき方まで、イラストつきで説明。ネットの書店を中心に注文が相次ぎ、年末に続編を発売。一昨年11月、男性用ブラジャーを発売した東京の下着通販会社「ウィッシュ」は、1年で1万枚以上を売り上げた。原宿や青山には、スカート男子やハイヒール男子が現れ、新しいファッションとして雑誌にも登場。

「女装は閉鎖的な文化だったが、価値観の多様性

で〈男らしさ〉の概念が揺らぎ、「きれいなら」と女装も受け入れる風潮が生まれ、女装のレベルは格段に上がった」と、「女装と日本人」の著書、多摩大非常勤講師の三橋順子さんはコメントしている。

「やりがい」も「能力」も高まった 短時間正社員

神戸市の百貨店内にあるモロゾフ喫茶店。調理場に立ち、笑顔で接客する川本舞さん(34)は、正社員より勤務時間が30分短い。

07年、「短時間勤務でも定年まで雇用されるショートタイム(ST)社員制度」が始まり、パートから転換した。勤続3年待てばST社員の試験を受験できる。転換後1年でフルタイムにもなれる。会社は、「人件費は増えるが、働く人たちの能力が高まる。職場全体が刺激され、売上増につながる」と評価している。

フルタイムに変わった流朋子さん(34)は「給料の

上がり方に驚いた。やっと一人で生活設計できるようになった」と感動。「社員にお伺いを立てる受け身の働き方が、積極的になった。働いた時間の長さだけでなく、仕事の成果で評価されるのがうれしい」と。

「働く母親」を手厚く支援するデパート

東京・日本橋の百貨店、高島屋は、1991年から育児勤務制度を導入。5時間〜7時間35分の5パターンを選んで、子どもが小学3年を終えるまで、通算12年間利用できる。

「出産で仕事を辞める人がほとんどいない」と、社員にも会社にも好評。2人目、3人目を産む人も増えた。

「仕事を1日1時間減らすと月収は約2万円減るが、子ども手当がでるようになったら1時間短くして、子どもとの対話を増やしたい」という人も。

自分自身がブランドに

群馬県桐生市を拠点に、フランスとイタリアからワインを輸入している金井麻紀子さん(36)。

1993年、絵の勉強のために渡仏。ワインの魅力にとりつかれ、国立農業専門学校で醸造などを学びながらワインの産地を回り、無名でもすばらしいワインを造っている生産者に出会った。フランス全土で300近い生産者を回り、三十数軒と取次を成立させた。実家は酒屋。「毎年、必ず買う」ことを条件に成功。自分の名を取って、「マキコレ」(マキ・コレクション)と命名。2年間で取引先は約4倍、年間売上は約5倍になった。「自前の倉庫もあり、地方にいても不便は全くない。ネット販売はせず、全国36軒の酒屋さんと限られたレストランとだけ契約。年に何回か勉強会を開いて、ワインについての知識も深めてもらう。好評を聞いて年に100軒くらいの酒屋さんから契約の申し入れがあるが、ほとんどは断っている。質の高い生産者は、簡単には見つからない。大量販売するよりも、水準と個性を保つことを優先、互いに顔の見える関係を築き、ネッ

トワークを少しずつ広げ(「マキ・コレ」を根付かせたい)」と、あくまでも誠実。

「自分の島で、最期まで」と 宅老所を開いた49歳

沖縄・伊江島で、介護施設「ふさと苑」を立ち上げた、鳥居塚誠子さん。

沖縄本島の北西にある伊江島は、人口約5千人。1日4往復のフェリーで約30分。共働きが多く、介護が必要になると、島外の施設に預けていた。

ふさと苑は、高齢者の住まい、宅老所のほか、デイサービスも提供。通年、午前9時半～午後4時半。午前8時のフェリーに家族が乗らないといけない日は、午前7時半に迎えに行く。家族が急用で島を出る時は、ショートステイで受け入れる。

ここではおもむきは使わない。トイレを使わせる。「おしっこをしたかったら言ってね。トイレのほうが気持ちがいいよ」と。

宅老所で暮らしているのは8人。テレビを見たり、踊ったりと、夕食後も、にぎやか。様子を見に来た家族は驚く。「痛みもがまんする人だったのに、ここでは言える雰囲気がある」と。

鳥居塚さんは、きょうだい4人の母子家庭で育ち、祖父母に育てられ、中卒で島を出、大学を卒業。就職して結婚。その後離婚して、80年、長男と島に戻ったが、祖母は認知症が進み沖縄本島の施設に。

面会に行くと、尿のにおいが漂い、服も4、5日前と同じ。「大きな施設では目が届かない」と、いくつかの宅老所を見学。「島にないなら、つくろう」と、15年努めた農協をやめて、島の宅老所で働き、経理や実務を身につけた。開所から1年半は、職員4人の給料の支払いが精いっぱい。誠子さんは無給だったが、口コミで小規模の良さが広まり、利用者も増えて経営も安定した。小さな離れ島。利用者は昔からの顔見知り多く、事情は調べなくてもわかる。家族もすぐ駆けつけられる所にいる。午前中は、指先を動かすことが必要な人は帽子を編むなど、一人

ひとりに合ったメニューで、寝たきりにならないよう、気をつかう。在所が1日でも長くなれば、事業所の収入も安定する。「みんな、最期まで島にいたい人たちの心に」添い続けたいと。

「家族の役に立ちたい」一念で

静岡県掛川市の岩倉松枝さん。1992年の暮れ、自宅近くで4トントラックにはねられた。能に損傷を受けて1か月も意識が戻らず、左半身のまひが残ったが、退院して数年後、長女が洗濯物をたたむことを頼んだ。初めて任された仕事に生き生き。

孫の何倍もの時間をかけて、右手だけでたたんだ。「おばあちゃん、すごいネ」と孫にほめられた。

「夫は、私が事故になって1年半、仕事を休んで介護をしてくれた。植物は挿し木をすればよみがえる。女房に代わりはいない」って。

「『つらいなア』って思うこともあるけれど、私は生かされた。だから、今は生きていたい。」と。

[illegible]

三〇歳代から六〇歳代は、内容が充実していました。しかしこれから高齢の占める割合を考えると、如何に自立して生きていくか、考えさせられました。

*

「あー、老いを考える」が届きました。いやあ、感動しました!!

実は私、塾から福祉業界へと、華麗なる変身を遂げておりまして、知的・精神しうがい者の方や、高齢者の方がたと、共に暮らす日々です。NPO法人(十人十色)を立ち上げてから五年。(その前は塾の一環として無認可で)、それが、

◆グループホーム4・5・6（よつこらしよ）

◆なんやこの(7・8・9)作業所
就労支援・生活介護

◆小規模多機能
ちゃんちゃん

◆福祉有償運送 とことこ

などなど……と展開し、たくさんの人たちの熱い応援に支えられ、感謝しながらやっています。

思えば、フラジャイルな人たちと共に生きたいと思ったのは、私自身がマインノリティで壊れやすいからでした。それが今、フラジャイルな方がたに支えられ、元気に暮らしているのです。

私が支援しているのではなく、私の

ほうが支えられているのです。

楽しい日々ですよ。老いは、結構素敵で楽しいものです。毎日「あはは。わはは」と、キャーキャー言つて笑いながらの現場です。どうぞ、ホームページ見てください。「十人十色鳥取用瀬岸本美鈴」で、検索できると思います。

「あごら」のみなさん、ツアー組んで
《十人十色》にも、来てください。

(鳥取 岸本美鈴)

324号を頂き、社民党のみずほさんとの「あごらメイト訪問」を読み、斎藤さんが入党されたことも知り、ある種の感動を覚えました。

実のところ私は、社会党時代に入党

し、社民党に変身したときに離れた古株。その後はずっと冷や飯を食わされている身。それでも、市・県・国会議員など、どんな選挙でも、シンのある社民党の候補者を支え続けてきたのです。そして、今回の参議院選は、夫と二人で勝手連を名のり、みずほさんのチラシ・名刺・ポスターを取り寄せ、全島の仲間たちと呼びかけ、「この人を落としてはいけませんので力貸して」と、票を集めました。

（沖繩 桑江テル子）

*

日本が戦争と、しかと向き合わねばならない、八月六日と九日を迎えました。

あごろ324号の編集後記を読み、

この春、斎藤さんと新宿でお会いた時は、事務局が大騒動の最中であつたことを知りました。本당にご苦労されていることと思いますが、その後どの

ような様子でしょうか。少しでもお役に立てばと、遅まきながらですが先日カンパをお送りしました。

今年は種々な節目の年で、今夏は、「北京+15」と「アンペイド・ワーク」、「均等法以後四半世紀と私たちの課題」といった原稿書きでつぶされていますが、機会があれば、「あごろ」に載せていただく原稿を書きたいと思っています。

*

（横浜市 久場嬉子）

編集部の皆さん、事務局の皆さん、毎日ほんとにごくろうさまです。

なんとか終刊にせぬように、これから、がんばってください。

（沖繩 山内道美）

（あごろ324号）岡崎トミ子さん、大臣に

菅新政権が誕生。（あごろ）会員の岡崎トミ子さんが内閣府特命担当大臣

に就任されました。鳩山政権時には福島みずほさんが、普天移設問題で大臣の職を投げ出して抗議されたあとだけに、また、会員の方が大臣になられたのは、格別感銘深く、ご健闘をお祈りしています。（編集部）

【編集後記】

◆記録的な猛暑日が続き、異常気象に苦しんだ夏でしたね。

発行がまたまた遅れてしまい、申しわけありません。ずいぶん前に頂いていた御原稿を、今ごろお届けすることを中心からお詫びします。

「なんとか終刊にせぬよう、これからも、がんばってください」と、沖繩の山内さんからお手紙をいただき、自分に活を入れなくては……と、自分の頭を叩いています。（千）

「あごら」は、人と人が出会うひろば――

思い悩んだとき、もっと豊かに生きたいとき、流れを変えたいとき……心おきなく話し合える仲間がいる。――そんなひろばが、北海道から沖縄まで、いつのまにか広がりました。

雑誌「あごら」を軸に、よりよい自分と社会を目指すゆるやかな連帯。どの部門にも「長」は置かず、自分を変え、社会を変える――「病床からでも参加できる運動」が、モットーです。

ハガキ・FAX・メール・電話でお申し込みください。

「BOC」の登録もどうぞ……

一九六〇年に生まれた「BOC＝バンク・オブ・クリエイティビティ」は「創造力の銀行」。あなたの創造力や特技、希望の報酬をご登録ください。各国語翻訳・通訳・企画・調査・取材・編集・校正等の専門職のほか、どんな「創造力」でも歓迎！ ただし、半年以上「あごら」会員の方に限ります。

連絡先

〒160-0022 東京都新宿区新宿一―九―四 中公ビル
電話 03-3354-3941（代表）FAX 03-3354-9014
Eメール XLV05467@nifty.com ㊟たはboc@mb.infoweb.ne.jp
ホームページ <http://homepage2.nifty.com/agora1/>

あごら 325号 中近東、南米の女男平等は？

- 編集 あごら新宿 ●発行 2010年10月10日 ●印刷 藤田印刷㈱
 - 発行所 BOC出版部 〒160-0022 東京都新宿区新宿1-9-4 中公ビル10F
 - TEL 03-3354-3941(代) ●FAX 03-3354-9014 ●E-mail XLV05467@nifty.com
 - 定 価 本体1,000円＋税 ●振替 00100-0-5264 BOCあごら編集部
-



9784893061829



1920036010004

ISBN978-4-89306-182-9

C0036 ¥1000E

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-9-4

定価 本体1,000円+税

平和と平等を追求する 『あごら』近刊シリーズ

〈女の壁〉にチャレンジした女たちⅡ

六〇代は女ざかり

米軍基地と沖縄差別

企画・編集・翻訳…
何でもご相談ください

創業1960年 —

女性専門職集団

BOC

各種プランニング

各種調査

取材・撮影・編集

校正・デザイン・レイアウト

各国語翻訳その他

男女共同参画の

BOCシニアも

スタートしました。

ベテランの知恵と経験を

お役立てください。

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-9-4

☎03-3354-3941 FAX3354-9014

E-mail XLV05467@nifty.com

サイレントマイノリティのBOC出版